

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.162

2006年11月

第2回名古屋大学ホームカミングデイを開催



<http://www.nagoya-u.ac.jp/>

## 目次

●ニュース	
第2回名古屋大学ホームカミングデイを開催	3
第2回名古屋大学インターナショナル・アドバイザリーボードを開催	10
赤崎記念研究館竣工記念式典及び祝賀会を挙げる	12
第2回高等研究院スーパーレクチャーを開催	14
平野眞一総長がアメリカセラミック学会最高栄誉賞を受賞	15
平成18年度名古屋大学公開講座「あなたの見えない世界を探る」が開催される	15
平成18年度「先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」に採択される	16
平成18年度「女子中高生理系進路選択支援事業」に採択される	16
大学院留学生特別コース学位記授与式を挙げる	17
「名古屋大学入学予定者のためのオリエンテーション」を上海事務所で開催	17
●知の先端	
神経変性疾患の病態抑止療法の開発：球脊髄性筋萎縮症（SBMA）の治療薬 祖父江 元（大学院医学系研究科教授）	18
●地域にひらく	
鑄造技術者のさらなる飛躍を期して —「産学連携・製造中核人材育成事業」中部の展開— 野村 宏之（大学院工学研究科教授） 一般向け冊子、コミック、全22冊を刊行 太陽地球環境研究所 広報委員会	20
●知の未来	
窮屈で果てしない中国 星野 幸代（大学院国際言語文化研究科助教授）	24
●部局ニュース	
平成18年度名古屋大学地震防災訓練及び救命講習を実施	25
第112回8大学工学部長会議を開催	26
第1回東海地区最先端学術情報基盤事業報告会を開催	26
市民公開講座「あなたは病院の医療専門職の活躍をご存知ですか」を開催	27
国際言語文化研究科が講演会「島村抱月の文学論」を開催	27
市民公開講座「心臓突然死から身を守るには」を開催	28
市民公開講座「電気でファッションブルライフ、あなたも今日からエコロジスト！」 を開催	28
熱帯アジアの津波災害に関する国際会議を開催	29
附属図書館2006年秋季特別展講演会を開催	29
『冷泉家時雨亭叢書』寄贈における感謝状贈呈式	30
自然観察会「バッタの運動会」を開催	30
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成18年9月16日～10月15日	31
●博物館からのお知らせ	
第9回名古屋大学博物館企画展「本に貼られた小さな美の世界 蔵書票」が はじまる	35
●INFORMATION	
「スモールワールド・コーヒーアワー」開催のお知らせ	36
●イベントカレンダー	36
●ちょっと名大史	
『八高生のぞ記』—旧制高校生たちの学園生活—	40

# 第2回名古屋大学ホームカミングデイを開催





- |   |   |   |                       |
|---|---|---|-----------------------|
| 1 | 2 | 4 | 1 ホームカミングデイ当日の豊田講堂    |
|   | 3 | 5 | 2 テーマ講演の様子            |
|   |   |   | 3 大学構内環境美化運動の様子       |
|   |   |   | 4 開会式であいさつする平野総長      |
|   |   |   | 5 開会式であいさつする豊田全学同窓会会長 |

第2回名古屋大学ホームカミングデイが、9月30日(土)、東山キャンパスにおいて、全学同窓会の共催を得て開催されました。当日は、秋晴れの爽やかな天気だったこともあり、同窓生や学生の家族を中心に、約4,000名もの参加がありました。

昨年に引き続き、今年で2回目となるこの行事は、卒業・修了生、学生、学生のご家族、地域の方々等に、本学の教育・研究の活動状況やすぐれた成果を紹介するとともに、本学構成員との交流の場を提供し、本学の活動を理解してもらうことを目的としており、今回は全学挙げての取り組みとして、行事当日を教職員の出勤日としました。

また、例年12月に開催される、本学の課長補佐相当以上の職にあった者で退職・転出した職員と、現職の事務局長をはじめ部長、課長、事務長等との相互交流を深める「第29回名古屋大学シニアの会」も併せて開催されました。これは、本学の運営に資することを目的として毎年開催されているもので、会員らが旧交を温める輪が会場のあちらこちらで見られました。

9月21日(木)には、本行事を前に、臨時の大学構内環境美化運動が実施され、来場者に気持ちよく過ごしてもらえるよう、全構成員挙げてキャンパスを清掃し、来る当日に備えました。

### ■テーマ講演・展示「宇宙から地球へ」

今年は、「宇宙から地球へ」をメインテーマにし、豊田講堂と野依記念学術交流館を中心に、宇宙や地球に関する講演や研究活動の紹介を行いました。

メイン会場となる豊田講堂では、ロビーにおいて、宇宙飛行士の地上訓練用装置及び宇宙実験用装置の展示、宇宙飛行士の毛利 衛氏による本学へのメッセージ放映、本学宇宙開発コレクションの展示が、午後1時から、ホールにおいて、ホームカミングデイ開会式及びテーマ講演が行われました。

開会式では、まず、平野総長より「自分が卒業した大学、在学する大学、関係された大学に、愛情や誇りを持っていただくことなくして、今後の名古屋大学の発展はありません。大学を顧みていただけるよう、構成員が一致団結して、同時に地域の方々と強い連携を図り、大学をさらに発展していきたいと考えています」と、あいさつがありました。次に、豊田章一郎全学同窓会会長（トヨタ自動車株式会社取締役名誉会長）よりあいさつがあり、本学の創立70周年事業の一環として、名古屋大学基金が設立されたことを紹介し、本学に対し、国際競争力を強化し、国際的に通用する教育研究を確立し、特にアジアとの連携を大事にしていくこと、財政や国際的位置づけに関して厳しい状況



にある日本の国を変える大学を目指すこと、さらに、高い志と情熱を持った人材、すなわち将来社会のリーダーとして活躍できる人材を育成することを期待し、その実現のためにも、名古屋大学基金の成功を祈念している旨を述べられました。その後、伊藤義人全学同窓会代表幹事による同会の活動報告があり、開会式は終了しました。

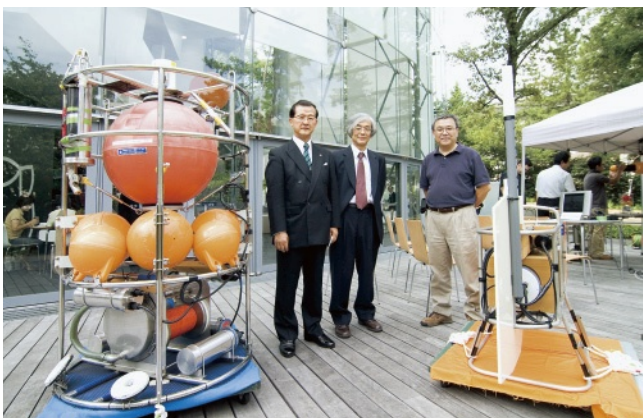
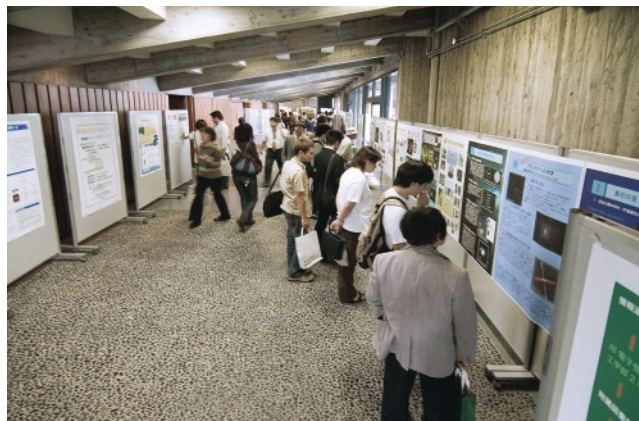
引き続き、國枝秀世理学研究科教授の進行のもと、4名の講演者によるテーマ講演が行われました。上出洋介太陽地球環境研究所教授による「宇宙からのメッセージ オーロラ」と題する講演では、スクリーンに次々と登場する神秘的なオーロラの画像に、会場は釘付けになっていました。高橋 亨文学研究科教授による『『竹取物語』と宇宙』と題する講演では、かぐや姫は宇宙人だったという説を紹介し、科学の側面ではなく、文学の側面から、テーマである宇宙、地球のロマンに迫りました。星出彰彦宇宙飛行士による「宇宙飛行士訓練概要」と題する講演では、NASA（アメリカ航空宇宙局）での訓練の様子を記録した貴重な映像が上映されました。星出氏は、平成11年から、ISS 搭乗宇宙飛行士の基礎訓練に参加し、宇宙飛行士として認定されており、現在、宇宙開発事業団宇宙環境利用システム本部宇宙環境利用推進部有人飛行推進室に勤務しています。前村孝志三菱重工株式会社名古屋航空宇宙システム製作

所技師長による「H-IIA ロケットのよもやま話」と題する講演では、ロケットの仕組みや作成技術について、説明がありました。前村氏は、同社入社以来一貫して液体ロケットエンジン・機体の開発に従事しています。

それぞれ異なった立場から語られるテーマ「宇宙から地球へ」に、参加者は興味深く、食い入るように聞き入っていました。開会式及びテーマ講演の様子は、シンポジウムホール、経済学部カンファレンスホールで、同時中継されました。

講演会終了後は、「星出宇宙飛行士を囲んで」と題し、参加者と星出氏との質疑応答の場が設けられ、普段接する機会のない宇宙飛行士を前に、大人も子どもも活発に質問していました。

野依記念学術交流館では、1階ホールにおいて、テーマ展示が行われました。これは、本学が大きな貢献を果たしてきた学問分野の一つである宇宙、地球に関する研究活動をパネル展示等によって紹介するもので、展示の中には、近年、宇宙航空開発機構（JAXA）によって打ち上げられた X 線天文衛星「すざく」に使用された X 線望遠鏡のモデルや、赤外線天文衛星「あかり」に使用された遠赤外線観測装置があり、来場者の興味を引いていました。



6	8	10	14
7	9	11	15
		12	16
		13	17

- 6 講演する前村氏
- 7 講演する星出氏
- 8 質疑応答の様子（左から、上出教授、高橋教授、星出氏、前村氏）
- 9 シニアの会であいさつする平野総長及び各理事
- 10 東山キャンパスの模型を見る参加者
- 11 H-IIA ロケットの模型をみる参加者
- 12 野依記念学術交流館の展示を視察する（左から）平野総長、大峯理事
- 13 宇宙飛行士の地上訓練用及び宇宙実験用装置
- 14 豊田講堂ロビーのパネル展示
- 15 テーマ展示を見学する参加者
- 16 テーマ展示を見学する参加者
- 17 テーマ展示の様子



18	20	23	25	18 大学説明会であいさつする杉山理事
19	21	24	26	19 大学説明会の様子
	22		27	20 「運動部同窓生と現役学生との交流会」の様子
				21 運動部交流会のパネリスト
				22 「健康運動の科学」の様子
				23 豊田講堂改修後の模型
				24 ケミストリーギャラリーでのノーベル賞展示を見る参加者
				25 職員の案内で中央図書館を見学する参加者
				26 スーパーコンピュータを見学する参加者
				27 ロビーに触れる見学者



■多彩な講演会の数々

テーマに関する講演等の他に、学内共通施設において様々な催しがありました。

豊田講堂では、ホールにおいて、午前中に大学説明会が行われ、参加した学生や保護者が熱心にメモをとる姿が見られました。また、シンポジオンでは、入試課担当職員による、受験相談コーナーも設けられました。

野依記念学術交流館では、2階カンファレンスホールにおいて、トヨタホーム株式会社代表取締役会長で、元山岳部所属の清水哲太氏、名古屋セントラル病院長で元テニス部所属の齋藤英彦氏、東海旅客鉄道株式会社 (JR 東海) 代表取締役社長で元陸上部所属の松本正之氏の3名をパネリストに迎えて、運動部同窓会と現役学生との交流会が行

われました。同窓生ならではの忌憚のない意見もとびだし、スポーツを通じた先輩後輩の実りのある意見交換会となりました。

博物館では、「健康運動の科学－中年からの健康づくり」と題し、島岡総合保健体育科学センター長による講演会が行われ、会場は満員の参加者で熱気に包まれました。

高等総合研究館では、6階カンファレンスホールにおいて、「中学生・高校生と語る会」と題した講演会が行われ、本学教育学部附属高等学校、名古屋市立北高等学校をはじめ、東京、京都の高校からも海洋体験学習の経験がある学生を招待し、「名古屋からみた日本と地球の海」をテーマにした講演及び学生たちとの討論会を行いました。



## ■学内施設の公開、研究成果の展示

豊田講堂2階第1会議室において、『豊田講堂のあゆみ』特別展「名古屋大学のあゆみ－キャンパスの変遷－」と題した展示が催されました。今年より改修が予定されている豊田講堂の歴史を、昭和35年竣工当時の豊田講堂の拡大写真や改修後の完成予想模型等で紹介しました。

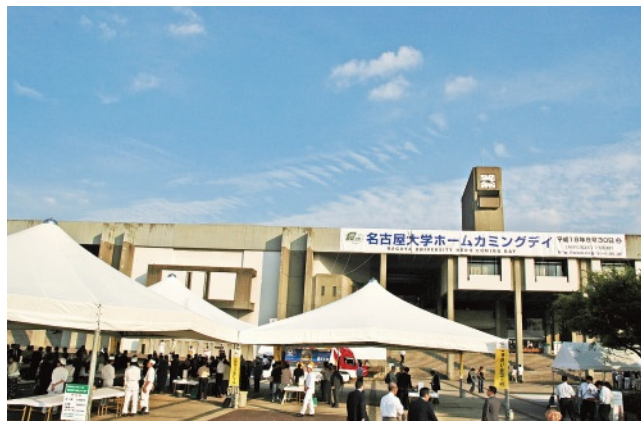
野依記念物質科学研究館では、野依良治本学特別教授のノーベル化学賞受賞を紹介するケミストリーギャラリーが公開され、見学者は同教授の研究業績のパネル等を熱心に見ていました。

附属図書館では、「江戸時代の村と地域－美濃養老・日比家文書に見る暮らしと災害－」と題した秋季特別展の公開、オープンライブラリー及び中央図書館ツアーがあり、

博物館では、第9回名古屋大学博物館特別展「スポーツと名古屋大学 する・みる・つくる」が、また、野外観察園では、散策ツアーが催されました。

情報連携基盤センターでは、スーパーコンピュータ見学ツアー、スーパーコンピュータで計算した結果を可視化して紹介するバーチャルリアリティシステム体験、各研究室の学生による研究紹介展示が行われ、ロボットと会話する来場者の姿も見られました。

高等総合研究館では、1階ロビーにおいて、高等研究院の活動をパネルにより紹介し、環境総合館では、災害対策室を公開しました。



28	31	28	大学院生命農学研究科附属農場による生産物販売
29	32	29	JAXAグッズの販売
30	33	30	交流サロンであいさつする平野総長
		31	豊田講堂前庭の様子
		32	交流サロンで演奏する軽音楽部
		33	交流サロンで演奏するフォルクローレ部
		34	無料シャトルバス

### ■その他

豊田講堂前庭では、大学院生命農学研究科附属農場による生産物、また、宇宙関連グッズや名大グッズが販売されました。特に、宇宙関連グッズの中でも、乾燥したアイスクリームなどの宇宙食が人気を博し、ブースは、いつもたくさんの人で賑わっていました。

また、同前庭で、午後3時から、交流サロンを開催し、総長や教職員と来場者との交流の場として賑わいました。

### ■趣向を凝らした各学部等のイベント・同窓会行事

各学部・研究科及び同窓会では、概要説明、講演会、研究室の公開・見学、研究成果の展示、懇親会等の行事が行われました。医学系研究科主催の市民公開講座「高齢化の時代の中で健康と安心した暮らしを支えるために」など、一般の方にもなじみやすい企画も多く、同窓生を中心に、多数の参加がありました。



学部等名	イベント内容
文学部・大学院文学研究科	文学部同窓会秋季サロン「ラジオ・テレビ放送の現場から」(多田しげお氏、丹野みどり氏)
	研究科紹介講演
	研究紹介・講演
	談話会
	同窓会昼食会 保護者懇談会
教育学部・大学院教育発達科学研究科	講演会「名大教育学部の魅力」(村上教授)
	研究紹介
	附属学校展示
	交流の広場
	同窓会総会
	図書室公開 保護者懇談会
法学部・大学院法学研究科	講演会 ①松浦研究科長挨拶 ②講演「日本とアジア」(柴田昌治氏) ③CALE 新作ビデオ上映 ④来賓挨拶(稲葉一生氏) ⑤CALE 5年間の活動報告(鮎京センター長)
	昼食会
	授業参観 ①テレビ会議システムを利用した授業参観 ②日本法教育センター(ウズベキスタン、モンゴル)における授業
	同窓生・保護者懇談会
	施設公開・見学ツアー
	研究・教育展示
経済学部・大学院経済学研究科	ゼミ研究発表
	保護者懇談会
	講演会(佐藤助教授)
情報文化学部	研究・教育展示
	昼食会
	保護者懇談会
	講演会「数学を聴く」(落合教授)
理学部・大学院理学研究科 大学院多元数理科学研究科	談話会「古生物学と分子生物学の統合による生物進化の解明」(小澤教授)
	研究展示
	研究室公開
	施設見学ツアー
	学科同窓会
	同窓会総会
	同窓会・保護者懇談会
医学部・大学院医学系研究科	市民公開講座「高齢化の時代の中で 健康と安心した暮らしを支えるために」(井口附属病院長、榊原教授、山下助教授、山口晃希氏)
	研究発表『『ライフトピア』について』

学部等名	イベント内容
工学部・大学院工学研究科	同窓会講演会(酒井吉彦会長、澤木研究科長) 講演会「名大の工学研究 いま、そして、みらい」(三矢教授、浅井教授)
	研究紹介
	研究室公開
	二葉会の歴史に関するパネル展示等
	同窓会昼食会 名報会(情報工学コース)昼食会 保護者懇談会(澤木研究科長、早川副研究科長、鈴置副研究科長)
農学部・大学院生命農学研究科	研究・映像紹介
	研究室公開
	施設見学ツアー 保護者懇談会
大学院国際開発研究科	講演会「ラテンアメリカ音楽の地域外における普及ー欧米におけるラテンアメリカ音楽史ー」 「ラテンアメリカ音楽の地域外における普及ー日本におけるラテンアメリカ音楽史ー」(西村助教授)
	研究・教育展示
	就職ガイダンス(村田敏雄氏、丹生晃隆氏、渡辺珠子氏)
	同窓会総会
	同窓会懇親会
大学院国際言語文化研究科	講演会「日本の大学の近未来」(平井勝利氏)
	昼食会
	日本語教育研究発表会 懇親会
大学院環境学研究科	講演会(林研究科長、安全安心学・持続性学プロジェクト担当者)
	研究紹介
	研究・教育展示
大学院情報科学研究科	研究室公開
	研究・教育展示
	研究紹介
環境医学研究所	昼食会
	講演会「心臓突然死から身を守るには」 研究紹介
太陽地球環境研究所	研究紹介
エコトピア科学研究所	研究紹介
地球水循環研究センター	研究紹介
	昼食会
総合保健科学体育センター	講演会「スポーツ科学連続講演会『健康運動の科学ー中年からの健康づくり』」(島岡センター長) 研究紹介

## ■学内設備を充実

今年、名古屋ドーム約14個分の広さを持つ東山キャンパス内の建物間を移動する手段として、無料シャトルバスを約10分おきに運行し、年配の来場者の足となって活躍しました。

また、生協の各食堂や、複数箇所にしたお弁当売り場での、名古屋の名物定食、弁当の販売、また、キャンパス内の至る所に、無料飲料水サービスを設置するなど、来場者が快適に過ごせるような、工夫が随所に見られました。

なお、当日のスケジュール等の詳細は、ホームページ(<http://www.nagoya-u.ac.jp/home-coming-day>)をご覧ください。



## 第2回名古屋大学インターナショナル・アドバイザリーボードを開催



あいさつする平野総長

第2回名古屋大学インターナショナル・アドバイザリーボード（国際諮問委員会）が、10月5日（木）午後から行われた大学院生との交流を皮切りに、6日（金）～7日（土）、野依記念学術交流館において、開催されました。

本委員会は、本学の学術研究及び教育の更なる充実・発展を図るため、本学の研究・教育活動等について総長が諮問し、国際的水準に照らした評価等に基づく助言・提言を行うことを目的に設置されたもので、第1回の会合は今年2月に開催しました。

今回は、本学における大学院教育のあり方に関して議論し、提言してもらうため、以下の3項目について総長より諮問がなされました。

1. 明確な人材養成目的に基づいた大学院教育を実現する。
2. 世界最高水準の教育研究拠点の形成を推進する。
3. 大学院教育の国際的な水準を保証する。

会議に先立ち、5日（木）午後からは、今回の諮問事項への端緒とするため、大学院法学研究科、大学院国際開発研究科、大学院理学研究科及び大学院医学系研究科の4研究科において、諮問委員と大学院博士課程の学生との交流の場が設けられました。

翌6日（金）、会議の冒頭、平野総長より歓迎の言葉があった後、議長に郷 通子委員（お茶の水女子大学学長）を選出しました。午前のセッションでは、今年7月11日に、野依良治第1回国際諮問委員会議長より提出された報告書を受けての本学の取り組みについて、平野総長より報告があった後、委員との意見交換等が行われました。

その後、杉山理事から「名古屋大学における大学院教育の重点課題」について説明があり、質疑応答がなされた後、大学院教育発達科学研究科、大学院法学研究科、大学院国際開発研究科、大学院生命農学研究科、大学院理学研究科、大学院医学系研究科の6拠点における大学院教育の事例について説明がありました。郷議長の議事進行による上記の



会議の様子

諮問事項に関する議論の結果、委員からは、「名古屋大学は専門学校ではないのだから、学問、学生の多様性を担保しつつ、総合大学としてふさわしい教育をすべきである」、「学生を育成する目標については、型にはめるような設定をすべきではなく、将来の変化の激しい社会からの要求に応えることのできる自立性、自発性を育むことに重点を置くべきである」といったコメントが出されました。

最終日の7日（土）は、前日の議論を踏まえた提言の議長案が提示され、同案に基づいた議論が行われた結果、以下の提言案がまとめられました。

各諮問事項に対する主な提言は以下のとおりです。

1. 明確な人材養成目的に基づいた大学院教育を実現する。
  - ・各学問領域の確固とした基礎的素養を育むことを前提として、新しい領域への展開を図る。
  - ・論文作成を通じ、課題探求力と問題解決力を備えた研究者とリサーチマインドをもった高度専門職業人の育成を図る。
  - ・博士学位取得者のキャリアパスの多様化を進める。
2. 世界最高水準の教育研究拠点の形成を推進する。
  - ・博士課程前期課程の学生への教育をいっそう充実させる取組を実施するとともに、博士課程後期課程の学生に対し研究費等の経済的支援を充実させる。
  - ・研究成果を外国語で書く訓練を強化し、国際的に発信する力を伸ばす。
3. 大学院教育の国際的な水準を保証する。
  - ・博士学位の信頼性を確保するため、部局・専攻・分野ごとの個別性に応じて審査基準を明確化する。
  - ・学位を含めた指導教員の資格について、大学として審査する体制を整備することが期待される。

今後、これらの提言を取りまとめ、「総長への提言」として郷議長より提出される予定です。

**International Advisory Board 委員**

**郷 通子 博士**

1989 名古屋大学教授、2003 長浜バイオ大学バイオサイエンス学部長、2004 名古屋大学経営協議会委員、2005 お茶の水女子大学長、2001 内藤記念科学振興賞受賞

**Louis J. IGNARRO (ルイス ジェイ イグナロ) 博士**

1979 チューレン医科大学教授、1985 UCLA 医学部教授、1994 ラッセル UCLA 賞受賞、1995 チバ高血圧研究奨励賞受賞、1998 ノーベル医学生理学賞受賞、2004 名古屋大学名誉博士

**池端雪浦 博士**

1989 東京外国語大学教授、1998 人文学名誉博士（フィリピン大学）、2001 東京外国語大学長、2001 文部科学省科学技術・学術審議会委員

**李 遠哲 博士**

1973 シカゴ大学教授、1974 カリフォルニア大学教授、1994 台湾中央研究院長、1986 米国科学メダル受賞、1986 ノーベル化学賞受賞、2003 名古屋大学名誉博士

**野依良治 博士**

1972 名古屋大学教授、1997 名古屋大学理学研究科長、2003 理化学研究所理事長、2000 文化勲章受章、2001 ウルフ賞受賞、2001 ノーベル化学賞受賞

**Rolf STÜRNER (ロルフ シュテュルナー) 博士**

1976 コンスタンツ大学教授、1981 シュトゥットガルト・カールスルーエ高等裁判所判事、1993 オーストリア・スイス・ドイツ民事訴訟法学会長、2000 フライブルク大学法学部長、2001 ハーバードロースクール客員教授

**Michel ZINK (ミシェル ザンク) 博士**

1964 パリ高等師範学校入学、1976 トゥールーズ大学教授、1987 パリ第4大学教授、1994 コレージュ・ド・フランス教授、2000 フランス学士院会員、2000 コレージュ・ド・フランス副学長

(注：氏名は、姓名のアルファベット順、漢字氏名以外はファースト・ミドル・ラストネーム順)



会議の合間に意見交換する（左から）野依委員、平野総長、李委員



池端委員と大学院生との交流の様子（国際開発研究科にて）



郷委員と大学院生との交流の様子（理学研究科にて）

**会議日程**

**10月5日(木)**

午後 大学院生と諮問委員の交流

**10月6日(金)**

- 9:20 開会挨拶
- 9:30 第1回会議の助言事項への対応・意見交換
- 10:20 高等研究院若手研究者によるプレゼンテーション
- 11:20 名古屋大学の大学院教育の説明・質疑応答
- 14:00 大学院教育改革の個別事例の紹介
- 16:30 諮問項目に対する意見交換
- 17:30 終了

**10月7日(土)**

- 9:30 答申案の提示及び審議
- 10:40 答申案審議・まとめ
- 11:30 閉会挨拶

## 赤崎記念研究館竣工記念式典及び祝賀会を挙行

赤崎記念研究館竣工記念式典が、10月20日(金)、IB 電子情報館大講義室及び赤崎記念研究館において、挙行されました。

同研究館は、高輝度青色発光ダイオードを世界に先駆けて実現した赤崎 勇本学特別教授の研究業績を称えるとともに、学術創生の重要性を後世に伝え、本学における独創的かつ先進的な科学技術研究を推進する目的で建設されたものです。

午後1時30分よりIB 電子情報館大講義室において挙行された竣工記念式典には、林 幸秀文部科学審議官、沖村憲樹独立行政法人科学技術振興機構(JST)理事長、松原彰雄豊田合成株式会社取締役会長、堀籠登喜雄同相談役、ボウ モネマー スウェーデン・リンショッピン大学教授、高橋 清東京工業大学名誉教授、榊 裕之東京大学教授等が来賓として出席し、赤崎特別教授をはじめ、平野総長、各理事、副総長、澤木工学研究科長等、学内からの出席者を併せて約150名が出席しました。

まず、式典冒頭で、平野総長が式辞及び、赤崎特別教授、文部科学省、豊田合成株式会社、JST への謝辞を述べた上で、「赤崎記念研究館と隣接するベンチャー・ビジネス・



式典の様子

ラボラトリー、インキュベーション施設を中心とし、『産学官連携ゾーン』として位置付け、一体的・有機的に機能させることにより、産業界などとの連携をより一層深め、本学だけでなく、中部地区の産学官連携の拠点としていきたい」との考えを示しました。続いて、林審議官、堀籠相談役、沖村理事長による祝辞、杉浦理事による同研究館の概要説明があり、最後に、同研究館竣工にあたり、ご尽力いただいた感謝の意を込めて、平野総長より、赤崎特別教授、豊田合成株式会社代表の松原取締役会長、JST 代表の沖村理事長の3名に、感謝状と記念品が贈呈され、式典は終了しました。

式典終了後、ボウ モネマー教授に対し、本学名誉博士記の授与式が挙行され、引き続き、同教授による「Recent Developments in the III-Nitride Materials (窒化物半導体の最近の進展)」と題した記念講演会が行われました。

その後、赤崎記念研究館に会場を移し、同研究館玄関前において、平野総長、赤崎特別教授、林審議官、松原豊田合成株式会社取締役会長、堀籠同相談役、沖村 JST 理事長、本学理事、澤木工学研究科長によるテープカットが行われ、引き続き、同研究館前庭において、平野総長、赤崎特別教



記念講演をするモネマー教授



式典であいさつする平野総長



テープカットの様子



記念植樹をする（左から）平野総長、赤崎特別教授

授による記念植樹が行われました。植樹された記念樹は、「ユズリハ（譲葉）」といい、赤崎特別教授の研究に対する情熱が絶え間なく後継者に継承されていくように、との願いが込められており、記念樹前に設置された白御影石の銘板石には、赤崎特別教授から後生へのメッセージとして、直筆の文字で、「研究に王道なし」と、彫り込まれています。

同研究館の見学では、来賓や式典参加者が、青色発光ダイオードの開発過程を解説したパネルや実験装置等の展示物を、興味深そうに見ていました。

同研究館は、鉄筋コンクリート造・地上6階建て、建築面積580㎡、延べ面積2,299㎡で、1階には、装置開発ファクトリー及び赤崎特別教授の研究業績と青色発光ダイオードの研究開発史を紹介した展示室があり、豊田合成株式会社より寄贈された160インチディスプレイが設置されています。2階には、産学官連携推進本部、知的財産部、社会連携課からなる産学官連携推進室、3～5階には、次世代の技術開発・研究開発のための研究実験室等のレンタルラボ、6階には、赤崎特別教授室があり、同室からは文字盤と針に青色発光ダイオードが用いられている豊田講堂時計台を臨むことができるよう設計されています。また、外観は永く後世に残る記念施設となるよう、重厚感と落ち着きのあるタイル張りになっています。

夕方からは、シンポジオンホールにおいて、同研究館竣工記念祝賀会が行われました。祝賀会では、平野総長からあいさつがあった後、赤崎特別教授から来賓各位に対し謝意が述べられ、同研究館の建設は、名古屋大学が、独創的・先端的な科学技術研究の推進と産学官連携活動強化の調和的かつ相乗的発展を目指す強い意思の表れと受け止め、感銘を深くしている旨、述べられました。続いて、高橋東京工業大学名誉教授、榊東京大学教授、兼松 顯名城大学長から祝辞があり、参加者らは同研究館の完成を祝い、和やかに歓談しました。



施設見学をする（左から）平野総長、赤崎特別教授、堀籠豊田合成(株)相談役



祝賀会であいさつする赤崎特別教授

## 第2回高等研究院スーパーレクチャーを開催



ザンク博士にCertificateを贈呈する平野総長



あいさつする北住院長

第2回高等研究院スーパーレクチャーが、10月10日(火)、野依記念学術交流館カンファレンスホールにおいて、本学の教職員・学生・一般市民など、約100名の参加を得て開催されました。

このレクチャーは、国際的に最先端を行く学術活動の一端を広く社会に伝えることを目的として、昨年度に引き続き開催されたもので、世界最高水準の研究者を招聘して行われる講演(名古屋大学レクチャー)と、高等研究院で採択された研究プロジェクトを終了した高等研究院教員による研究成果の発表(高等研究院レクチャー)の2部構成で行われました。

田上英一郎高等研究院副院長の司会進行のもと、始めに、北住高等研究院長の趣旨説明及びあいさつがあり、次いで、高等研究院レクチャー及び名古屋大学レクチャーが行われました。

名古屋大学レクチャーでは、フランス学士院会員、コレージュ・ド・フランス副学長のミシェル・ザンク博士が「西洋における詩歌の一源泉－中世吟遊詩人の歌とその解説書－」(フランス語、同時通訳付き)と題した講演を行いました。ザンク博士は、吟遊詩人によって作られた詩が解説付きで出版された際に、その解説が、時には的はずれなものがありながらも、興味深い心理分析を含むことがあり、後の心理小説の芽ばえともなったことなど、多くの示唆に富む内容を話しました。また、講演前に平野総長からザンク博士にCertificateの贈呈が行われました。講演後には、参加者と、予定時間を超えての活発な質疑応答も行われました。

高等研究院レクチャーでは、森 郁恵理学研究科教授による「線虫行動の研究から脳・神経系のしくみを理解する」、内田浩二生命農学研究科助教授による「体の中でできる“さび”の科学」、笹井理生工学研究科教授による「ソフト分子マシン」、新美智秀工学研究科教授による「高クヌッセン数流れのミクロスケール・アナリシス」、後藤節子医

学部保健学科教授による「妊娠期および産後女性の精神的健康に関する研究」、そして武田邦彦工学研究科教授による「アイヌ文化と科学技術」の6つの報告がなされ、高等研究院での研究成果が披露されました。

なお、高等研究院では、特定の研究テーマに主眼を置いた高等研究院フォーラムを、12月5日(火)に、高等研究院研究者育成特別プログラム発足記念「公正な科学研究に向けて－業績評価と研究倫理－」と題し開催する予定です。



講演するザンク博士



講演する森理学研究科教授

## 平野眞一総長がアメリカセラミック学会最高栄誉賞を受賞

平野眞一総長が、108年の歴史を持ち、世界のセラミックスにおける科学・技術をリードしているアメリカセラミック学会から、同学会の最高栄誉賞にあたる、ディステインギッシュド ライフメンバーシップ賞を授与され、10月16日(月)、アメリカオハイオ州シンシナティのヒルトンシンシナティ ネザーランド プラザ ホテルにおいて挙行された授賞式に出席しました。

これは、セラミックスの研究分野におけるノーベル賞とも称される権威ある賞で、総長は、本賞史上最年少の受賞



平野総長



平野総長に授与された表彰状

者となります。受賞理由は、セラミックスの分野での顕著な学術業績と科学的貢献、特に分子レベルでの化学的プロセスへの貢献によるものです。また、総長が、世界に先駆けて開発した、真のナノ材料としての機能を発現する、ナノセラミック結晶粒子と有機質とのハイブリッド化は、特筆されるものであり、国際的にも高く評価されています。

総長は、受賞にあたり、「これまでのセラミック研究一筋の業績が国際的に認められ、嬉しく思っています。大学総長としての行政から離れ、久しぶりに研究の場に触れて、喜んでおります。」と話されました。

なお、総長は、国際セラミックアカデミー会員、アメリカセラミック学会フェロー、日本結晶成長学会名誉会員であり、リチャード・M・フルラス賞、日本化学会学術賞、日本セラミックス協会学術賞、日本ファインセラミックス協会国際賞など、国内外の多くの賞を受賞しており、学会役員としては、国際セラミック連盟会長、アジア・オセアニアセラミック連盟会長、日本セラミックス協会会長などを歴任しています。

## 平成18年度名古屋大学公開講座「あなたの見えない世界を探る」が開催される

平成18年度名古屋大学公開講座「あなたの見えない世界を探る－名古屋大学の最先端研究－」が、8月22日(火)から10月10日(火)までの毎週火・木曜日、シンポジオンホールにおいて、開催されました。

この公開講座は、昭和44年に名古屋市教育委員会との共催事業としてスタートし、当初は名古屋市教育館で行われていましたが、昭和50年から本学の主催事業となり、今年度で38回目の開催となりました。今年度は、「あなたの見えない世界を探る－名古屋大学の最先端研究－」を総合

テーマに全学から講師を選任し、全15回の講義が行われました。受講者全体の9割が50歳以上で、平均年齢が約63歳、最高年齢は81歳と、高齢者を中心に157名の参加がありました。

講義では、本学の教員がいろいろな形の見えない世界について、名古屋大学の最先端研究を紹介しながらわかりやすく解説し、受講者は熱心に聴講していました。また、毎講義終了後には、受講者から講師に多くの質問が寄せられるなど、講義に対する関心の高さが伺われました。なお、最終日には、10回以上出席した受講者に対し、山本副総長より修了証書が手渡されました。



講義の様子



受講者に修了証書を手渡す山本副総長(左)

## 平成18年度「先導的 IT スペシャリスト育成推進プログラム」に採択される

文部科学省「先導的 IT スペシャリスト育成推進プログラム」が選定され、本学から1件が採択されました。

本プログラムは、我が国の国際競争力に直結する深刻な問題として、ソフトウェア分野における人材が質・量ともに不足しているとの指摘がなされていることを受け、大学間及び産学の壁を越えて潜在力を結集し、教育内容・体制を強化することにより、世界最高水準のソフトウェア技術者として求められる専門的スキルを有するとともに、社会情勢の変化等に先見性をもって柔軟に対処し、企業等において先導的役割を担う人材を育成する教育拠点の形成を支援するものです。

初年度の今年は、26件の申請があり、審査の結果、6件が採択されました。

### 教育プロジェクト：

OJL による最先端技術適応能力を持つ IT 人材育成拠点の形成

### 取組代表者：

阿草 清滋 情報科学研究科長

### 連携する大学及び民間企業等：

南山大学大学院数理情報研究科、愛知県立大学大学院情報科学研究科、静岡大学大学院情報学研究科  
トヨタ自動車株式会社、株式会社デンソー、ブラザー工業株式会社、富士電機リテイルシステムズ株式会社、東京エレクトロン株式会社、株式会社オートネットワーク技術研究所

## 平成18年度「女子中高生理系進路選択支援事業」に採択される

文部科学省「女子中高生理系進路選択支援事業」が選定され、本学から1件が採択されました。

本事業は、「科学技術創造立国」を国家戦略とし、科学技術基本法及び科学技術基本計画に基づいて総合的に科学技術政策・施策を推進している我が国において、科学技術関係人材の養成は、最重要課題の一つと位置づけられており、特に女性の科学技術分野への参画については、男女共同参画社会形成の観点からも促進すべき重要課題となっているにも関わらず、現状では、女性研究者の比率が欧米諸国に比べ著しく低く、また、特に理工系の学部・大学院において女性の割合が低い状況にあることから、女子中高生の科学技術分野に対する興味・関心を喚起するとともに、具体的なロールモデルを示して当該職業への理解の深化及び進学意欲・進路意識の向上に資することを目的とするものです。

### 申請機関名：

名古屋大学男女共同参画室

### 計画名：

女性科学者のロールモデル提示と中学校・高等学校女子生徒の科学分野への進路選択支援

### 取組概要：

女性科学者を紹介する女子中高生向けパンフレットの作成と、女子中高生、保護者、指導者を対象とした公開授業・意見交換会・交流会の開催を行います。



## 大学院留学生特別コース学位記授与式を挙

平成18年度大学院留学生特別コース学位記授与式が、9月28日(木)、豊田講堂第1会議室において、総長、理事、監事、副総長、研究科長ら列席のもと、挙行されました。

現在、本学には、大学院における外国人留学生のための英語による特別コースが、大学院法学研究科博士課程(前期課程)綜合法政専攻、大学院医学系研究科修士課程医学専攻、大学院工学研究科博士課程(後期課程)土木工学専攻及び大学院環境学研究科博士課程(後期課程)地球環境科学専攻で開設されており、平成9年度から海外の入学・



記念撮影



修了生に学位記を授与する平野総長

修了時期に合わせ、9月に学位記授与式を行っています。

授与式では、修了生のうち、大学院法学研究科の6名及び大学院医学系研究科の16名に修士の学位記が、大学院工学研究科の5名に博士の学位記が、総長から、一人一人に授与され、本学での課程を修了したことに対する祝辞と、本学で学んだ知識や技術をさらに研鑽し、母国のみならず、世界の発展のために力を発揮されることを希望する旨の激励の言葉が贈られました。

これを受けて、修了生を代表して大学院工学研究科の顧浩声さん(中国)が、日本での研究生生活、指導教員や日本人学生との交流など、留学中のエピソードを交えた謝辞を、流暢な日本語で述べました。

閉会後は、総長をはじめとする列席者、陪席の指導教員、修了生の家族等を交えて記念撮影が行われるなど、厳粛な中にも和やかな雰囲気となりました。

## 「名古屋大学入学予定者のためのオリエンテーション」を上海事務所で開催

9月5日(火)、本学が昨年11月11日に開設した上海事務所において、今秋、本学への入学を予定している中国人学生等に対するオリエンテーションを開催しました。

これは、本学において、中国人留学生が全留学生の40%を占める現状を鑑み、より優秀な人材を惹きつけるため、質の高い教育サービスを提供することを目的に、今年初めて行ったものです。

オリエンテーションには、中国人学生7名、保護者1名及び上海地域に留学している本学の日本人学生3名の計11

名が参加しました。

まず、中国語版の本学紹介ビデオを上映し、続いて、松浦留学生相談室長が、パワーポイント(中国語版)を用い、渡日前の留意事項を分かりやすく説明しました。その後行われた質疑応答では、宿舍の入居時期やアルバイト、食費などについての質問がありました。また、参加した日本人学生が、日本でのアルバイトの状況や食費について、具体的に説明するなど、日中の学生同士で、地域や大学の情報などについて活発に情報交換し、打ち解けた雰囲気の中、オリエンテーションは無事終了しました。

参加者からは、「出発前にどんな準備が必要かよくわかった」、「留学前の不安をだいぶ解消できた」と、好評でした。

今回のような活動は、本学が受け入れる留学生にとっても、海外に留学している日本人学生にとっても、情報収集やネットワークの構築において有益であることから、今後も今回の経験を足がかりに、さらに充実した事業を展開していく予定です。



オリエンテーションの様子



日中学生の自由交流

# 神経変性疾患の病態抑止療法の開発： 球脊髄性筋萎縮症 (SBMA) の治療薬

祖父江 元 大学院医学系研究科教授

あなたは「薬」を使ったことがありますか？おそらく一度も使ったことがないという人はいないのではないのでしょうか。私たちの周りには多くの「薬」があり、疾患の治療に使われています。その一方で「薬」がない疾患もたくさんあります。その一つが「球脊髄性筋萎縮症 (SBMA)」です。

SBMA とは運動神経細胞の障害により筋力低下を生じる病気で、通常30～50歳代の男性に発症します。症状は徐々に進行して手足の力が弱くなり、杖や車いすが必要となります。嚥下に関わる筋力も低下し、食べ物などが気管や肺に入りやすくなり、それが原因で肺炎を起こし、生命の危険に直結する場合があります。今までSBMA に対して有効な「薬」はなく、症状が進行するのを見守るしかありませんでした。

神経細胞が何らかの原因により徐々に変性・死滅する疾患は、SBMA の他にもアルツハイマー病やパーキンソン病などがあり、神経変性疾患と総称されます。これらの疾患には、神経変性のプロセスそのものを抑える治療法がありませんでしたが、最近の研究の進歩により病態を抑止する治療法の開発が望めるようになってきました。

SBMA の原因は、男性ホルモンの受容体タンパク質であるアンドロゲン受容体 (AR) の遺伝子異常であることが判明しています。AR 遺伝子の中のシトシン・アデニン・グアニンの繰り返し配列の数 (CAG リpeat数) が異常に多いために、正常な AR とは異なる変異 AR が作られます。もともと AR は細胞の核内で男性ホルモン作用発現の指令を出す役割をしています。正常な AR は神

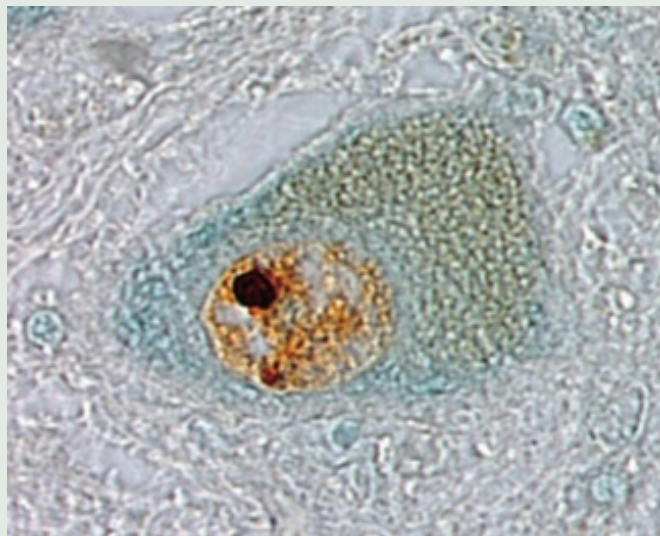


図1：SBMA 患者の脊髄にある運動神経細胞。核内に変異 AR の蓄積（茶色に染色されている部分）を認める。

神経細胞の核内で分解されるのですが、変異 AR は分解されにくく、核内に蓄積してしまいます（図 1）。すると、徐々に神経細胞が障害をうけて、筋力低下などの症状が出現します。

われわれは SBMA に対する「薬」を開発したいと考え、まず CAG リピート数が延長した AR 遺伝子を組み込んだモデルマウスを作製しました。このマウスでは実際の患者さんと同様に進行性の筋力低下があり、運動神経細胞の核内に変異 AR が蓄積することが認められました。これらは雄マウスだけにみられ、雌マウスはほぼ正常だったことから、病気の発症に男性ホルモン（テストステロン）が関与しているのではないかと考えました。雄マウスを去勢しテストステロンが分泌されない状態にすると、変異 AR が核内に蓄積しないことが判明したのです。さらに、テストステロンを低下させる作用をもつ酢酸リュープロレリンという「薬」を投与したところ、症状や病理所見が劇的に改善することが確認され、酢酸リュープロレリンが SBMA に対する「薬」の候補となりました（図 2）。

そこで、われわれは 50 名の患者さんを対象に、酢酸リュープロレリンの有効性を確認する予備的な臨床試験を実施しました。1 年間の投与により病理所見が改善するとともに、嚥下障害が改善することを示す結果が得られ、酢酸リュープロレリンは SBMA の患者さんに対して病態抑止療法薬となることが期待されました。そこで、さらに「薬」

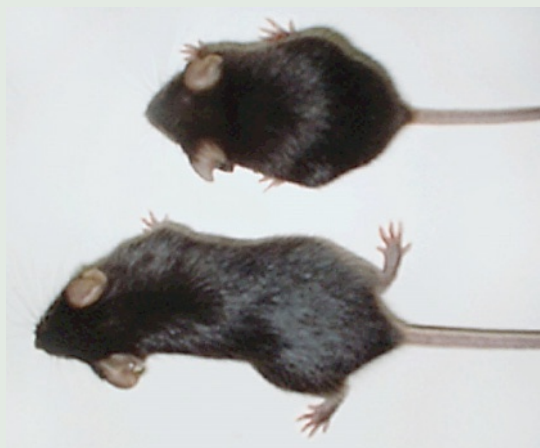


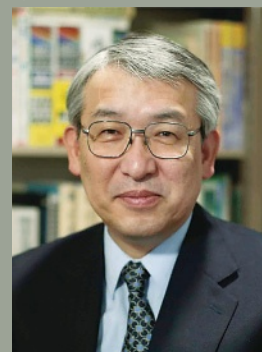
図 2: 無治療のマウス（上）では筋の萎縮が著明であるのに対し、酢酸リュープロレリンを投与したマウス（下）では筋の萎縮がみられない。

としての承認を厚生労働省から受けるために「治験」と呼ばれる臨床試験を計画しました。日本医師会治験促進センターの支援のもと、製薬企業ではなく医師自らが主導する治験として、2006 年 9 月から治験が開始されています。170 名の患者さんが参加する予定で、名古屋大学附属病院をはじめ全国 14 の医療機関で行われます。この治験は、神経変性疾患の病態抑止療法の先駆けとして世界から注目されています。

この「薬」が SBMA の患者さんにとって大きな福音になることを信じて、これからの治験を遂行していきたいと考えております。

昭和 50 年名古屋大学医学部卒業。  
平成 7 年名古屋大学医学部神経内科教授。  
平成 12 年より名古屋大学大学院医学系研究科神経内科教授。  
シュワン細胞の増殖・分化の cAMP シグナルによる調節機構の解明、球脊髄性筋萎縮症におけるアンドロゲン受容体遺伝子とその遺伝子発現の解析ならびに動物モデルの作成とホルモン療法の開発、筋萎縮性側索硬化症のコピキチンリガーゼ・ドルフィン発見など、神経疾患の病態理解とともに治療への新しい方向を開拓している。がんと神経変性疾患には共通の機序があり、がんにも効く薬が神経変性にも効くとの考えで研究を進めている。  
21 世紀 COE プログラム「神経疾患・腫瘍の統合分子医学の拠点形成」拠点リーダー。

そぶえ けん



# 鑄造技術者のさらなる飛躍を期して

——「産学連携・製造中核人材育成事業」中部の展開——

野村 宏之 大学院工学研究科教授

中部地区、とりわけ東海地区は、自動車産業や工作機械など多くの“ものづくり”産業が集積する地区となっていて、関連産業を含めて広い裾野を持つ産業構造を形づくっています。それを支える素形材産業、特に鑄造産業は“ものづくり”産業の中核をなしており、生産量も非常に多いのが現状です。まさに東海地区の鑄造生産技術の進歩は、これまでの日本の鑄造技術を牽引してきたという過言ではないでしょう。

しかしながら、この先いわゆる団塊世代技術者の大量退職や技術者の海外支援のための流出などによって、鑄造技術の停滞や技術継承の断絶、ひいては鑄造技術の空洞化が大いに懸念されるようになってきました。そこで、そのような心配が現実となることを防ぐためには、産学が一体となって鑄造の中核的技術者を養成することが期待されています。そこで2005年に経済産業省の大型プロジェクト「製造中核人材育成事業」が採択され、中部地区でも独自のプランのもとで中核的技術者育成に着手することとなりました。この事業は産学の緊密な連携によって、問題設定および解決能力のある技術者を育成しようとするプロジェクトであり、2007年度以降には事業が自立化することが求められています。

図1は自立化に至る連携関係を示します。

中核人材育成とはいうものの、中核的技術者とはいったいどのようなイメージの技術者なのか定義づけは難しいのですが、鑄物製造において上流工程から下流工程までを見通すこと

ができ、問題点のありどころ、またその解決への手段や道筋を提案することができる主体的な技術者であると考えられます。この考えで、次のような受講生を対象としてカリキュラムを編成することになりました。

- ・入社以来相当期間、鑄造の生産技術について知識と経験があること
- ・年齢的には30歳～40歳くらいの中堅の技術者がイメージしやすい
- ・将来的に会社を背負って立つ気概に富む者

実際のカリキュラム作成については、中部地区の特徴が自動車および機械産業などにおいて大量生産鑄物に関わる技術者が多いことを念頭に置き、技術者の育成プログラムでは、表1に示すよ

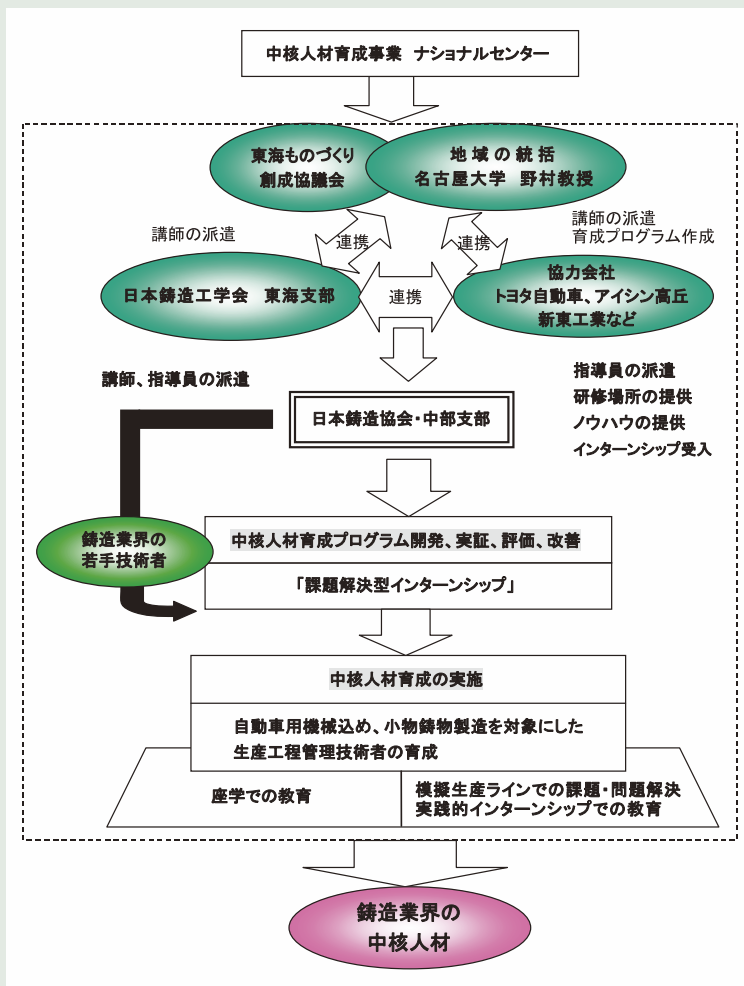


図1. 中核人材育成事業の自立化への協力関係

うに講義3科目、 세미나、演習3科目とインターンシップを軸として構築しました。

講義（3科目）	鋳鉄製造、非鉄アルミニウム製造、 鋳型と造型
実習、セミナー（3科目）	造型・鋳造実習、材料解析セミナー、 コンピュータシミュレーションセミナー
実習	インターンシップ (鋳鉄系、アルミニウム系)

表1. 中部地区中核人材育成における科目構成

講師陣は、名古屋大学、トヨタ自動車、アイシン高丘、新東工業などから延べ40名以上の現役の教員、指導的技術者が選ばれました。会社の技術者が自社、他者の区別なく同業の技術者を育成しようとする試みはこれまでにはなく、この点でまさに画期的な事業といえます。平成17年度末には、図2のような、6冊の講義テキストと生産工程DVDビデオが完成しました。さらに平成18年度となって受講生や企業からの要望を聞きつつそれらの改善も進めているところです。18年度の実証講義は150名の受講生募集に対して230名以上の応募があり、その反響の大きさに非常に驚くも嬉しい限りでした。



図2. 講義テキストとDVD

図3は講義と実習の様子です。

平成18年度は各講師により6科目、インターンシップの実証講義・実習が行われます。これにより各科目で不十分な点、改善すべき点などをあらい出し、事業内容を充実させていきます。その過程では、関東や近畿など他地区のプロジェクトと連携をとりつつ、中部地区独自の事業を展開していくことが望まれています。中部地区、とりわけ東海地区はこのプロジェクトを実効あらしめる人的資源、サポート体制に恵まれています。必ずや技術者にとっても飛躍の機会を与えてくれる魅力的な事業に発展していくことを確信し、そのためにも不断の努力をしていきたいと考えています。

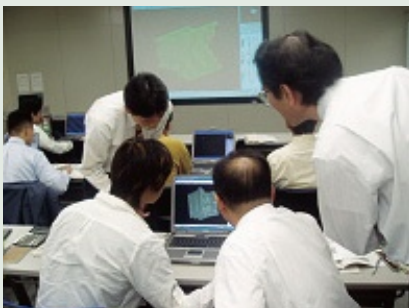


図3. 講義と実習の様子

1943年生まれ。  
1971年名古屋大学大学院工学研究科博士課程修了。  
現在、大学院工学研究科マテリアル理工学専攻教授。  
経済産業省「製造中核人材育成事業」（鋳造）中部地区委員長。  
「努力すれば結果はついてくる。やることを好きになろう」を目標にしています。  
趣味は水彩画。

のむら ひろゆき



# 一般向け冊子、コミック 全22冊を刊行

太陽地球環境研究所 広報委員会

## 地域貢献事業への取り組み

文部科学省が2002年度に創設した「地域貢献特別支援事業」に、本研究所の「研究所および附属観測施設と地域社会の交流」事業が採択されたことを契機に、所内に広報委員会を立ち上げました。自然科学への関心を喚起することを目的として、同委員会を活動の中心に、これまでにシンポジウム、出前授業、絵画コンクールの開催、スーパーサイエンスハイスクールへの協力、日本科学未来館との共催アウトリーチ事業など、ユニークな企画を実現してきました。全国共同利用研究所としての本研究所の事業対象は文字通り全国ですが、とくに附属観測所が設置されている北海道陸別町との間には、社会連携連絡協議会を発足させ、自治体のニーズに耳を傾けています。

## 一般向け冊子の制作

地域貢献事業のひとつとして、一般向け冊子の制作があります。最先端の研究をわかりやすい言葉で解説し、広く社会に紹介することで、研究成果を国民へ還元することを目的としています。

冊子には、(1) Q&A形式で太陽・地球科学に関する50の項目を挙げ、研究所教員が平易な文で解説し、陸別町職員がイラストを描いた「○○○50のなぜ」シリーズと、(2) 人気科学漫画家を起用したコミック「○○○ってなんだ!」シリーズの2種類があります。

2003年に始まった「○○○50のなぜ」シリーズは、この度完成した「放射線帯50のなぜ」が10作目の節目となりました。10作品のテーマは、次のとおりです。

- |        |         |
|--------|---------|
| オーロラ   | 地球温暖化   |
| 太陽・太陽風 | 大気のとっぺん |
| 惑星     | 極地      |
| オゾン    | 地磁気     |
| 宇宙線    | 放射線帯    |

人々の関心がとくに高い「地球温暖化」から、一般にはまだあまり馴染みのない「放射線帯」まで、本研究所が関係する分野を扱っており、現在は「電波50のなぜ」の編集が進んでいます。なお、「地磁気50のなぜ」は、東京大学地震研究所との共同企画でした。



全10作となった「○○○50のなぜ」シリーズ

一方、コミック「〇〇〇ってなんだ!」は、国際学術組織 Scientific Committee on Solar-Terrestrial Physics (SCOSTEP) と共同で制作しているシリーズです。日本語版だけではなく英語版「What is 〇〇〇?!」も発行しており、国際会議などで配布され、大きな人気を得ています。これまでに、日本語・英語版共に次の6テーマで制作しました。

- 地磁気 / Geomagnetic Field
- オーロラ / Aurora
- オゾン / Ozone Hole
- 太陽風 / Solar Wind
- 地球温暖化 / Global Warming
- 宇宙線 / Cosmic Rays

一般向けの冊子は、研究所公開や講演会などで配布されるほか、りくべつ宇宙地球科学館、豊川市ジオスペース館、名古屋大学の広報プラザにも常時置かれています。さらに、研究所ホームページでも公開し、自由に閲覧できるようにしたところ、年間のアクセス数が200万件を超える好評ぶりです。ホームページを見た教育機関や民間



研究所ホームページ

機関からの照会も多く寄せられています。月刊誌「子供の科学」(誠文堂新光社)に連載中のマンガ「GoGo ミルボ!」では、「〇〇〇 50のなぜ」シリーズから既に7テーマが選ばれています。

冊子、コミックの制作を通して、多くの人が科学に対する高い知的好奇心を抱いていることを実感すると共に、その好奇心に応えることが本研究所の地域貢献事業の目標でも考えています。



「〇〇〇ってなんだ!」と「What is 〇〇〇?!」シリーズ

## 窮屈で果てしない中国

星野 幸代 大学院国際言語文化研究科助教授

中国研究者には二種類あるようです。多数派は、中国大好き、風物も料理も京劇も何でも OK、だから都市化した中国は味わいが無いという人々。一方少数派は、中国に対して違和感がある、でもその吸引力に逆らえず研究対象にしている、だからコンビニが進出した中国の大都市にほっとする人々。両者それぞれに長短があると思われませんが、私は後者寄りです。

私の専門は 1. 中国近現代文学、2. フェミニズム／ジェンダー、3. 台湾小説・映画です。

中国近現代文学で一番日本人になじみ深い作家は魯迅でしょう。同時代の、中国文学の田山花袋ともいべき郁達夫は名古屋大学の前身、旧制八高の留学生です。私が研究している文人グループ・新月社は、魯迅の論敵でした。彼らは欧米留学生、つまり当時としては超エリートで、政治的には国民党サイド。従って彼らは、共産党中国建国前後にさっさと台湾や欧米へ脱出してしまいました。でなければ、「右派」文人として粛清されていたに違いありません。そんな経緯から、中国文学研究には、未だにご当地・大陸中国よりも我々外部

の研究者の方が有利である——中国における自分の社会的地位を顧慮することなく、作家作品を批評できる——面があります。

フェミニズム／ジェンダーの問題に私が興味をもったのは、北京大学でお世話になった夏曉虹先生の邦訳『纏足をほどこいた女たち』（藤井省三監修、清水賢一郎と共訳）をしてからです。纏足は女性抑圧の象徴となる一方、美しい纏足靴の技術は重要な女性文化です。さらに、女性は生来マゾヒストか否か？など、纏足は今なおホットな問題を提起し続けています。

台湾映画には、日本人にとって「懐かしい」一流派があります。台湾人が無意識に表現する日本的な原体験。それは日本が台湾を植民していた時代の負の遺産です。とはいえ、台湾映画はそんな日本人の後ろめたさを尻目に香港、大陸中国、韓国、日本などを巻き込み著しくボーダーレス化し、グローバル化しつつあります。アカデミー監督賞を取った李安のような欧米になじむ感性がある一方、蔡明亮の寓話的な性描写はグロテスク・アジアへ回帰する。変幻予測不能な研究対象です。



講義中の筆者



纏足靴と12.5cm（0才児）の靴



# 平成18年度名古屋大学地震防災訓練及び救命講習を実施

●災害対策室



IB 電子情報館で行われた防災講演の様子

地震防災訓練が、10月11日(水)、東山地区、鶴舞地区、大幸地区、豊川地区、留学生会館及び国際嚶鳴館において、実施されました。

この訓練は、本学構成員の防災意識の高揚を図るとともに、マニュアルなどに定められた災害発生時の基本的な対応手順を確認する目的で、平成15年度から実施しているものです。今年度の訓練では、勤務（講義）時間中に、名古屋市内で震度6弱の揺れとなる地震が発生したという想定で、情報伝達、安否確認、避難、部局独自の訓練等が行われました。

当日は、午前10時37分に地震が発生したという想定で訓練がはじまり、直ちに平野総長から災害対策統括本部設置の指示が出されました。訓練開始の情報は、電話、FAX及び東山キャンパス内に設置した屋外防災無線装置（日本語・英語）で伝えられ、建物によっては館内放送も利用されました。訓練終了後は、IB 電子情報館において、鈴木災害対策室長による防災講演会や起震車による模擬地震体験が行われ、多数の教職員、学生が参加しました。

今回の訓練では、学生及び教職員の安否確認について、新しいシステムを使った訓練も実施されました。これは昨年までの訓練で明らかになった安否確認に時間がかかるという問題点を解決するために、情報連携統括本部と災害対策室が開発を進めたシステム、「名大ポータル」の一部を使い、自分の安否情報を携帯電話から登録できるようにしたものです。今回は経済学部、農学部など4部局を対象に、システム側から登録を呼びかける「発信型」の安否登録訓練を行い、多数の安否情報が登録されました。

また、今年度より地震防災訓練の一環として、名古屋市消防局の協力のもと、普通救命講習Ⅰ（成人コース・3時間）の出張講習が、東山地区において実施されました。

この講習は、8歳以上の心肺蘇生法を中心に学び、講義



シンポジオンで行われた普通救命講習の様子

（応急手当の必要性について(15分))及び実技(心肺蘇生法、AED取扱法、異物除去要領、止血法(15分))からなり、講習修了者には、名古屋市消防長の認定する「救命講習修了証」が交付されます。

今年度は、地震防災訓練当日を含めて計6日開催され、約240名が受講しました。参加者は、スラックス等の動きやすい服装で参加し、講義を受けた後、人形を使った実技に臨みました。最初は、照れもあってか、ごちない動作だった参加者も、講習が進むにつれてだんだんと熟達していきました。

講習終了後、参加者からは、「最近、駅ホームや学内にも設置されているAED（自動体外式除細動器）の取り扱い方法を知ることができてよかった」、「災害は起こらないに越したことはないが、いざという時には、今日勉強した技術を役立てていきたい」という声が多く聞かれました。

今年度は、240人の定員に対して申し込みが殺到し、定員オーバーで受講できなかった人も多数でため、来年度以降も継続して実施する予定です。

## 第112回 8 大学工学部長会議を開催

●大学院工学研究科

第112回 8 大学工学部長会議が、本学を当番校として、10月6日(金)、名鉄グランドホテルにおいて、開催されました。

会議には、片岡 洋文部科学省高等教育局専門教育課企画官及び吉泉朋亜係員列席のもと、8 大学（北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、京都大学、大阪大学、九州大学、名古屋大学）の工学研究科長、副研究科長等56名が出席しました。

まず、澤木本学工学研究科長のあいさつがあり、片岡企

画官から「高等教育を取り巻く最近の状況」について説明があった後、三つの協議事項、「総人件費改革への対応」、「認証評価・法人評価」、「大学院教育の改革（実質化・国際性・拠点研究）」について、活発な意見交換が行われました。また、豊田政男大阪大学工学研究科長から、本会議の前に開催された「8 大学工学部長会議懇談会」の報告も併せて行われました。

今回は、東京工業大学を当番校として、平成19年4月に開催される予定です。



会議の様子



「高等教育を取り巻く最近の状況」について説明する片岡企画官

## 第1回東海地区最先端学術情報基盤事業報告会を開催

●情報連携基盤センター

情報連携基盤センターは、9月22日(金)、同センター演習室において、第1回東海地区最先端学術情報基盤事業報告会を開催しました。この報告会は、同センター、本学附属図書館及び国立情報学研究所の共催で行われたものです。

同センターは、国立情報学研究所が中心となって進めら

れている最先端学術情報基盤（CSI）事業の、大学間電子認証基盤及び次世代学術情報ネットワークに関するプロジェクトに参画しています。

報告会では、安達 淳国立情報学研究所開発事業部長が、CSI 事業について説明し、内藤久資多元数理科学研究科助教授及び葛生和人同センター特任助教授が、本学で開発されているシングル サインオン システムや、IC カードを用いた Windows へのログインシステムの紹介をし、石田隆城星城大学助手及び松尾啓志名古屋工業大学情報基盤センター長が、学内認証基盤の事例を紹介しました。

当日は、東海地区の各大学から約50人の教職員が訪れ、大学における電子認証システムへの関心の高さが伺えました。



講演する安達氏

## 市民公開講座「あなたは病院の医療専門職の活躍をご存知ですか」を開催

●医学部保健学科

医学部保健学科は、10月15日(日)、同学科新館オーデトリウムにおいて、市民公開講座「あなたは病院の医療専門職の活躍をご存知ですか」を開催しました。

本講座は、昭和58年以来、健康や医療の問題を中心とした生活に深く関わるテーマで、一般市民を対象に毎年実施しているものですが、今回は、同学科を構成する5専攻



会場の様子

(看護学、放射線技術科学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学)のそれぞれが養成する医療専門職について、一般の方々にわかりやすく紹介しました。特に、大学進学を控えた高校生が進路を選ぶ際に参考にしてもらおうと、高校生を中心にポスターやホームページにより広く参加者を募集したところ、東海3県から36名(内、高校生は24名)の参加がありました。

現代のチーム医療を支える重要な役割を担いながら日頃目にする機会が少なく、また、マスコミに取り上げられることもあまりないため、医師に比べ一般に理解されにくい病院の医療専門職について、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士のそれぞれの資格を持った教員が、その職種の位置付け、病院や社会における役割及び専門性について、医療現場での自らの体験を交えながら参加者にわかりやすく解説しました。

長時間にわたる講義でしたが、参加者はメモを取りながら皆熱心に聞き入っていました。一般の参加者からは、それぞれの専門職の深い専門知識に驚いた、と言う感想があった他、参加した高校生からは、職業選択や進学の参考にしたい、と言う声が聞かれました。

## 国際言語文化研究科が講演会「島村抱月の文学論」を開催

大学院国際言語文化研究科は、9月22日(金)、文系総合館カンファレンスホールにおいて、同研究科で明治時代の修辞学を研究し、博士号を取得したマッシミリアーノ トマシ ウェスタン・ワシントン大学教授による講演会「島村抱月の文学論」を開催しました。

この講演会では、同教授による2冊目の著作、



講演するトマン教授

『島村抱月：その言説における言語・自然主義・フェミニズム (Shimamura Hogetsu: Language, Naturalism and Feminist Discourse in his Literature)』をもとに、新体詩の成立に寄与したこと、田山花袋や島崎藤村の自然主義を認知したこと、言文一致の考え方における修辞という新概念の位置づけを行ったこと、芸術座の創立などによる演劇活動に尽力したことなど、島村抱月の数々の業績について流暢な日本語で解説しました。また島村抱月は、明治時代に評論、翻訳、戯曲にわたって幅広い活躍をしていたにも関わらず、現代においては文学史上の人か、女優松井須磨子と共に想起される文人となっており、その活躍が社会的に葬られた理由について語りました。

当日は、多数の教職員、学生の参加があり、島村抱月の業績と生涯について理解を深めました。

## 市民公開講座「心臓突然死から身を守るには」を開催

●環境医学研究所

環境医学研究所は、9月23日(土)に、シンポジオンホールにおいて、中日新聞本社の共催を得て、市民公開講座「心臓突然死から身を守るには」を開催しました。

この講座は、深刻な健康問題である突然死の主な原因となっている不整脈(心室細動など)をテーマとして採り上げ市民向けに紹介するもので、当日は、100名を超える参



活発なパネルディスカッション風景

加者がありました。

開講に当たり、児玉同研究所長からあいさつがあった後、神谷香一郎同研究所教授による「突然死とは」と題するイントロダクションを皮切りに、石川 清名古屋第二赤十字病院副病院長による「救急外来でみる突然死」、本荘晴朗同研究所助教授による「心臓突然死の解明－不整脈を視る」、坪井直哉社会保険中京病院循環器科部長による「心臓突然死の予防－植え込み型除細動器(ICD)について」及び花木芳洋名古屋第一赤十字病院救急部長による「心臓突然死を救う－AED(自動体外式除細動器)の普及自治体の取り組み」と題する講演があり、その後のパネルディスカッションでは、活発な質疑応答も行われました。

また、会場ロビーでは、心機能不全時における救命・救急に用いられるAEDの展示が関連企業3社の協力を得て行われ、参加者は、心肺蘇生法による応急手当等について、熱心に説明を受けていました。

## 市民公開講座「電気でファッションブルライフ、あなたも今日からエコロジスト!」を開催

●エコトピア科学研究所

エコトピア科学研究所エネルギーシステム寄附研究部門は、10月13日(金)、環境総合館レクチャーホールにおいて、市民公開講座「電気でファッションブルライフ、あなたも今日からエコロジスト!」を開催しました。

同寄附研究部門は、将来の最適エネルギーシステムの構築を目指した研究開発における最新動向を広く社会に知っ

てもらうために、周辺企業や学生向けのシンポジウムなどを開催してきましたが、より広く一般市民の理解を深めるため、市民公開講座を企画・開催しました。

電気は、市民生活に溶け込んでいて、無駄使いをしている意識が乏しいのですが、その一方で、エネルギー問題、環境問題については、そのターニングポイントが迫っています。環境と調和した持続可能な社会を実現するためには、市民一人一人が電気への理解を深め、その大切さを知り、日常生活の場で電気を大切にしている行いを実践するようになることが重要です。

今回の市民公開講座では、北川邦行同研究所副所長のあいさつの後、中部電力の宮田真理氏及び大久保 仁同研究所教授より、身近な省エネと身近な電気現象である雷についての講演が行われました。

主婦から学生まで幅広い層から75名の参加があり、どの層の参加者からも好評を得ました。今回の好評を受け、今後も定期的に開催していく予定です。



会場の様子

## 熱帯アジアの津波災害に関する国際会議を開催

●大学院環境学研究科

熱帯アジアの津波災害に関する国際会議が、8月31日(木)から9月1日(金)にかけて、タイのプーケットにおいて、本学と日本学術振興会、タイ国のプリンスオブソンクラー大学の共催により開催されました。

この国際会議は、海津正倫環境学研究科教授が研究代表者となっている、日本学術振興会のアジア・アフリカ学術



オープニングセレモニーでの海津教授と安藤教授

基盤形成事業「地域特性にもとづく熱帯アジア臨海域の自然災害軽減に関わる研究連携」に基づき開催されたものです。

初日は、安藤雅孝同研究科教授による、地震・津波発生メカニズムに関する基調講演の後、2004年のインド洋大津波で被害を受けた、タイ、インドネシア、バングラデシュの研究者と日本の研究者による、津波災害の実態及び被害軽減に関する研究が報告され、これらのテーマに関する国際的かつ学際的な研究連携の可能性について意見交換が行われました。

2日目は、津波被災地域の現地踏査が行われ、各国の実情の違いについて相互理解を図るよい機会となりました。

詳しくは、<http://www.geog.lit.nagoya-u.ac.jp/aaplat/> をご覧ください。

## 附属図書館2006年秋季特別展講演会を開催

附属図書館は、2006年秋季特別展「江戸時代の村と地域－美濃養老・日比家文書にみる暮らしと災害－」の関連企画として、10月9日(月)、同館多目的室において講演会を開催しました。

この特別展は、同館所蔵の高木家文書を核とする地域貢献特別支援事業の中で、旧養老郡沢田村の豪農である日比



講演会の様子

家に伝わる古文書(総数5,000点以上)が寄贈されたことを機に開催されたものです。講演会には、学内外から150名を超える参加があり、立ち見が出るほどの盛況ぶりです。伊藤附属図書館長のあいさつのあと、2つの講演が行われました。

まず、秋山晶則同館研究開発室助教授が、「日比家文書にみる暮らしと災害」と題し、開発中のGISデータベースも用いながら、頻発する河川氾濫や土石流と闘った江戸時代の村人たちの暮らしぶりや、災害対応に焦点をあてて講演をしました。続いて、水本邦彦京都府立大学教授が、「美濃路・伊勢道・近江道」と題し、美濃・伊勢・近江を結ぶ往還ルートを俯瞰する形で、緊密に結ばれていた名古屋を含む伊勢湾エリアと京・琵琶湖・日本海での往時の姿を、物流の具体的なあり方を基に講演しました。

その後、講師を交え参加者と活発な質疑が行われましたが、散会後も引き続き、展示室で、史料を前に熱心に講師に質問したりメモをとる参加者の姿が数多く見られました。

## 『冷泉家時雨亭叢書』寄贈における感謝状贈呈式

●附属図書館

附属図書館は、9月13日(水)、福井武司氏(福井康雄理学研究科教授の御尊父)による『冷泉家時雨亭叢書』の寄贈に対し、感謝状贈呈式を挙りました。

『冷泉家時雨亭叢書』は、公家の名門であり、歌道の家柄として知られる冷泉家に伝わる国宝、重要文化財を含む古文書、古写本類の影印本で全81巻からなり、福井氏からは、今後の刊行分も含めて寄贈を受ける予定です。

贈呈式は、仲介を行った塩村 耕文学研究科教授及び附属図書館関係職員の立会いのもと行われ、高齢の福井氏の代理として出席した福井康雄理学研究科教授に対し、伊藤附属図書館長から感謝状が贈呈されました。

附属図書館では、今回寄贈していただいた69巻を、寄贈者名を冠したプレートとともに4階フロアに配架し、広く教育研究の利用に役立てます。



感謝状を贈呈する伊藤館長(右)



福井教授と『冷泉家時雨亭叢書』

## 自然観察会「バッタの運動会」を開催

●大学院生命農学研究科附属農場

自然観察会「バッタの運動会」が、9月23日(土)、大学院生命農学研究科附属農場の放牧地と実験・実習広場において、開催されました。

この観察会は、地域貢献特別支援事業「都市近郊の農業教育公園」の一環として、「東郷町グリーンベルトを考える会」主催、同研究科附属農場共催のもと、毎年この時期

に開催されています。当日は、天候にも恵まれ、近隣の幼稚園児、小学生やその父兄など、総勢62名が参加しました。

始めに、同会の指導員から、バッタなど秋の虫について説明があった後、1時間ほどかけて、放牧地でバッタを捕まえました。参加者は、捕まえたバッタの種類について図鑑を見ながら指導員と確認した後、1匹ずつジャンプ台へ乗せて飛び立たせ、バッタの飛距離を競いました。広場を越えて60メートル以上飛んだものもあり、参加者は、思った以上に飛ぶバッタに驚いていました。参加した子供たちには、ススキの葉で作ったバッタが、参加賞として贈られました。



バッタ飛ばしの様子

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成18年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
1 コンビニ独自色で勝負：本学キャンパス内に outlets したファミリーマートは、今後、コンビニビジネスをファミリーマートの社員が講義するなど、全国初の国立大学との産学連携を目指す	9.16 (土)	中日 (夕刊)
2 ほとけたちのイメージを探る：宮治昭・文学研究科教授 雲岡石窟の弥勒菩薩	9.17 (日)	中日 (朝刊)
3 中日新聞を読んで：新聞は少子化の現場の声をつぶさに報道すべき 中西久枝・国際開発研究科教授	9.17 (日)	中日 (朝刊)
4 見るだけ「授業研究会」参加型に：的場正美・教育発達科学研究科教授は、「授業研究会はどこでもやっているが、あたりさわりのない感想で終わったり、若い先生が年上の先生に遠慮して発言できなかったり、ということがありがち」と指摘する	9.18 (月)	中日 (朝刊)
5 本学と国立天文台などの研究グループは、オリオン星雲で、太陽の約25倍の質量がある若い恒星「IRc2」がガスやちりなどを吹き出している様子を鮮明にとらえることに成功	9.18 (月) 9.19 (火) 9.20 (水)	日経 (朝刊) 他3社
6 科学技術振興機構は、戦略的創造研究推進事業・さきがけタイプの2006年度第2期募集に、中村崇裕研究員 (遺伝子実験施設) の「PPR 蛋白質ファミリーの解析と RNA 調節酵素への応用」、上野隆史・物質科学国際研究センター助手の「多孔性蛋白質結晶のナノ空間化学」など111件を採択	9.18 (月) 9.19 (火)	日刊工業
7 環境医学研究所市民公開講座「心臓突然死から身を守るには」23日にシンポジオンホールで開催 神谷香一郎・同研究所教授、本荘晴朗・同研究所助教授らが心臓突然死の予防、救命などについて話す	9.19 (火) 9.20 (水) 9.21 (木)	中日 (朝刊)
8 医学部主催の敬老の日特別シンポジウム「100年の命、100年の心—健康に豊かに生きる長寿社会」が18日に開催され、長谷和徳・工学研究科助教授、安藤祥子・医学部保健学科教授らが講演した	9.19 (火)	中日 (朝刊)
9 医学部保健学科公開講座「あなたは病院の医療専門職の活躍をご存知ですか」10月15日開催	9.19 (火)	日経 (夕刊)
10 公開セミナー「南海トラフの巨大地震を解き明かす」10月28日開催 安藤雅孝・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授らが東海地震などについて語る	9.19 (火)	中日 (夕刊)
11 パロマ事故が問う「品質」：家森信善・経済学研究科教授 市場の選別に任せ、企業の自主的な努力を促す方が安全技術の開発も活性化	9.20 (水)	日経 (朝刊)
12 アルゼンチンの哲学教授で、フォルクローレ歌手でもあるリリアナ・エレロさんが10月に初来日し、全国コンサートツアーや本学など3大学での講演を行う 来日企画を進めた西村秀人・国際開発研究科助教授はリリアナさんについて、「伝統的なアルゼンチン・フォルクローレに、非常に大胆で斬新な解釈を加える、独自の歌い方」で知られていると話す	9.20 (水)	中日 (朝刊)
13 法科大学院の修了者を対象にした新司法試験の初の合格発表が21日行われる 本学は28人が新試験を受験 中舎寛樹・法科大学院長は、「名大はこの地区の基幹校でもあり、全員合格させるつもりでやってきた」と語る	9.21 (木)	読売
14 ローカル・マニフェスト推進ネットワーク東海などが、来年2月の愛知県知事選へ向け、フォーラム「マニフェストが選挙と自治体を変える！」を23日に開催 同ネット世話人の後房雄・法学研究科教授がマニフェストについて説明し、「マニフェストを掲げて当選すれば、有権者との契約を結んだことになり、首長主導の政治ができる」と意義を強調した	9.21 (木) 9.24 (日)	中日 (朝刊) 読売
15 愛知県経営者協会の創立60周年記念事業で大学生と経営者の討論会開催 本学など4大学の文系の大学生8人と岡部弘・デンソー会長ら文系出身の経営者が討論する	9.21 (木) 10. 5 (木)	毎日 (朝刊) 日経 (朝刊)
16 風向計：家森信善・経済学研究科教授 地域と共生するため個人株主重視の道を模索すべき	9.22 (金)	読売
17 不正行為申立窓口を学外の弁護士事務所「太田勇法律事務所」に設置 申立があった場合は、公正責任者の山本進一理事をトップに外部委員を含む9人で構成する公正研究委員会が調査にあたる	9.22 (金) 9.27 (水) 9.28 (木)	中日 (朝刊) 他5社
18 新司法試験の合格者が21日に発表され、本学は28人が受験し17人が合格 中舎寛樹・法科大学院長は、「20人合格してくれればと思ったが、地域の基幹校としての面目は保たれた。司法試験の予備校にはならない。法曹人になってから役立つ技を教育している」と話す	9.22 (金)	中日 (朝刊) 他4社
19 理化学研究所理事長・野依良治・本学特別教授らノーベル賞受賞者やトヨタ自動車取締役名誉会長・豊田章一郎・全学同窓会会長ら財界人らが「日本科学オリンピック委員会」を結成	9.22 (金)	朝日 (夕刊)
20 講演会「教育基本法改定は必要か」24日開催 中嶋哲彦・教育発達科学研究科教授が話す	9.23 (土)	朝日 (朝刊)
21 ほとけたちのイメージを探る：宮治昭・文学研究科教授 龍門賓陽中洞の尊像	9.24 (日)	中日 (朝刊)
22 万博から1年 未来へ：「モリゾー」「キッコロ」の運用方法について、新グッズの審査委員長を務める森川高行・環境学研究科附属交通・都市国際研究センター教授は、「環境に配慮された製品にのみ認められている現行の運用方法をさらに発展させ、エコマークと同等の価値と役割を持たせるなどの工夫も必要」と話す	9.24 (日)	読売
23 中部の医療：産後うつ病の研究をする村瀬聡美・発達心理精神科学教育研究センター助教授は、「周囲の人、特に夫ら家族によるフォローが大切だ」と話す	9.25 (月)	読売
24 「第9回全日本学生グライダー新人競技大会」が30日から10月6日まで開催 出場する本学航空部の桃井浩太さん・本学学生と長江尚紀さん・同学生は、「同じ東海勢はもちろん、関東勢にも負けたくない」と口をそろえる	9.25 (月)	朝日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成18年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
25 college mode : 丹羽亜衣さん・本学学生 女子大生必需品の「汗ふきシート」	9.26 (火)	中日 (朝刊)
26 新たに、本学参与として中村利雄・博覧会協会事務総長、金田新・NHK 理事を招へい 任期は10月1日から1年間 平野眞一総長は、「広い見識と外部からの視点で本学へのアドバイスをしてほしい」と話す	9.27 (水)	中日 (朝刊) 読売
27 中部ペンクラブ「文芸シンポジウム」10月1日開催 堀内守・本学名誉教授をコーディネーターに、「書くことに弾みがつく時」というテーマで東海三県の同ペンクラブと三重文学協会員の6氏が意見交換する	9.27 (水)	中日 (朝刊) 朝日 (夕刊)
28 論点：理化学研究所理事長・野依良治・本学特別教授 独立行政法人研究機関には自立的な運営が担保されるべきで、それには柔軟な予算制度が不可欠だ	9.28 (木)	読売
29 講演会「リレー講座・地震と防災のやさしい科学150分」10月14日開催 安藤雅孝・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授らが地震発生のしくみから具体的対策までを東海地域を題材に科学的に解説する	9.28 (木) 10. 2 (月)	朝日 (朝刊) 中日 (朝刊)
30 シンポジウム「なごやこう・未来港房」10月28日開催 黒田達朗・環境学研究科教授らの講演など	9.28 (木)	中日 (朝刊)
31 シンポジウム「伊勢湾の貧酸素化と再生」29日に農学部で開催	9.28 (木)	朝日 (朝刊)
32 物質科学国際研究センターの主催で「ものづくりー化学の不思議と夢」10月14、15日に開催	9.28 (木)	日刊工業
33 26日に実施した大学院教育発達科学研究科博士前期課程心理発達科学専攻の入試で、出題ミス	9.28 (木)	朝日 (朝刊) 他4社
34 トヨタ自動車グループの支援を受け、豊田講堂を46年ぶりに全面改修する 外壁を新装するほか、シンポジオンホールとの間をガラス張りの屋根や壁でつなぎ、吹き抜ける空間を設ける構想 2008年春完成を見込む	9.29 (金) 10. 1 (日)	中日 (朝刊) 日経 (朝刊)
35 文部科学省の「派遣型高度人材育成協同プラン」の選定を受け、大学院生を民間企業に長期派遣し、研究開発リーダーを育成するインターンシップ事業が本格化 2005年度の派遣企業1社、派遣学生12人に対し、2006年度は6社、23人に拡大、5年後には30社、120人を目指す	9.29 (金)	日刊工業
36 文部科学省は、たんばく質解析基板技術開発の実施課題として、本学大学院理学研究科の「SAIL 法を基盤とした次世代タンパク質 NMR 解析技術の開発と応用」など7件を採択	9.29 (金)	日刊工業
37 研究スポット：糖尿病性神経障害 中村二郎・医学系研究科助教授は、「発症と同時に高血糖が出現、代謝異常が存在する。厳格な血糖コントロールとともに、代謝異常を是正する薬剤として現時点で使用可能な唯一のARIを投与するのが理想的だろう」と話す	9.29 (金)	中日 (朝刊)
38 「第2回名古屋大学ホームカミングデイ」30日開催 テーマは「宇宙から地球へ」	9.30 (土)	中日 (朝刊)
39 シンポジウム「21世紀の外国人政策」29日開催 浅川晃広・国際開発研究科講師ら外国人問題の専門家6人のパネリストが意見交換を行い、浅川講師は、「在留状況の確認を義務づける一方で、日本語学習支援を国家的に行うべきだ」と主張した	9.30 (土)	毎日 (朝刊)
40 ノーベル賞会見 大学スタンバイ：ノーベル賞発表期間中は、本学も広報担当者が待機する 赤崎勇・特別教授が受賞した場合は、平野眞一総長が名城大学での会見に同席する予定 平野総長は、「本学の関係者では、7、8人ぐらいは『ぜひ受賞してほしい』という人がいる。胸をワクワクさせながら待っている」と話す	10. 1 (日)	朝日 (朝刊)
41 身近な活断層：林能成・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター助手 「活断層」が地震の源であることが広く社会に知られるきっかけとなった石廊崎断層	10. 1 (日)	中日 (朝刊)
42 備える：名古屋市は、地震発生の3～5分後に1次被害予測を、10分後には本学や東邦ガス、愛知県の地震計の情報も取り入れ、2次被害予測を出す「地震被害予測システム」を1999年から導入している	10. 1 (日)	中日 (朝刊)
43 文部科学省は、21世紀 COE プログラムで2004年度に採択した「革新的な学術分野」28件の中間評価を発表 本学の「計算科学フロンティア」は、5段階の総括評価で、「目的達成が可能」と判断された	10. 2 (月)	日刊工業
44 ひらめき☆ときめきサイエンス「人に優しいバイオマスー最先端木材研究への招待ー」7日大学院生命農学研究科で開催 講師は土川寛・同研究科教授	10. 2 (月)	中日 (朝刊)
45 モリゾー・キッコロ環境エクスカッション総合シンポジウムが1日に開催され、竹内恒夫・環境学研究科教授らが参加 児童らが藤前干潟などで環境学習をした感想を披露した	10. 2 (月)	中日 (朝刊)
46 「大学院留学生特別コースの学位授与式」9月28日に挙行 アジア11ヶ国から来日した29人に学位を授与した 平野眞一総長は、式で全員の研究内容を紹介し、「名大で学んだことを生かして、発展されることを信じている」と激励した	10. 3 (火)	中日 (朝刊)
47 ノーベル財団は、ノーベル医学生理学賞の受賞理由を解説した資料で、参考文献に水野猛・生命農学研究科教授らの文献をあげた 受賞した2人より14年早く、大腸菌を使ってRNAの転写阻害作用を実証していた水野教授は、「84年当時は新規性のある研究で、その後、世界中の研究者がいろいろな生物で同じ働きを試し、線虫を使った彼らの研究に行き着いたと思う。我々の研究は早すぎたのかもしれない」と話す	10. 3 (火)	毎日 (朝刊)
48 文部科学省の国立大学法人評価委員会による2005年度の国立大学法人・大学共同利用機関法人の業務実績評価 本学は、ノーベル賞受賞者3人を含むインターナショナル・アドバイザリー・ボードを設置し、国際的視点で助言を受けたことを評価された	10. 3 (火)	日刊工業



本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成18年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
49 脳知る技使う心：こころの病と神経回路 尾崎紀夫・医学系研究科教授は、「うつ病はなぜ発症するかなど分かっていない部分は多く、その解明のための遺伝子を調べる必要がある」と話す	10. 3 (火)	日経 (朝刊)
50 2日、教育学部附属中学校・高等学校の2007年度生徒募集要項を発表	10. 3 (火)	朝日 (朝刊)
51 安倍晋三首相は3日、新設する私的諮問機関「教育再生会議」の座長に、理化学研究所理事長・野依良治・本学特別教授を起用する方針を固める	10. 3 (火)	朝日 (夕刊) 他2社
52 2004年2月に亡くなった網野善彦氏の業績を検証するシンポジウム「中世史家・網野善彦―原点の検証」が9月に本学で開催された 1967～1980年、本学で教べんをとった網野氏の教え子らが企画したもので、研究者ら約150人が参加した	10. 3 (火)	毎日 (夕刊)
53 2006年度ノーベル物理学賞発表：杉山直・理学研究科教授コメント「宇宙の始まりのごく初期に起きた大膨張や宇宙のビックバン理論を裏付ける大きな発見で、いつノーベル賞を獲得してもおかしくない成果だった。宇宙理論を天文衛星観測で実証した意味でも、宇宙理論研究者にとって嬉しい」	10. 4 (水)	中日 (朝刊)
54 書籍：「サナギから蛾へ」石崎宏矩・本学名誉教授著	10. 4 (水)	中日 (朝刊)
55 映画「アウト・オブ・プレイス」に寄せて：中西久枝・国際開発研究科教授	10. 4 (水)	朝日 (夕刊)
56 4日、「アフリカの飢餓を考える講演会」が開催され、約250人が参加 平野眞一総長らが「地球市民としての貢献活動のあり方」をテーマにパネル討論を行い、積極的な意見が交わされた	10. 5 (木)	中日 (朝刊)
57 4日、「教育再生会議」の座長に理化学研究所理事長・野依良治・本学特別教授の起用が内定 野依教授は、「大役だが、科学者としての視点を会議の議論に生かす観点から、微力を尽くすことにした」と話す	10. 5 (木)	読売 他2社
58 新エネルギー・産業技術総合開発機構は、2006年度第2回大学発事業創出実用化研究開発事業」に、中央化工機株式会社・三信鉱工株式会社・JFEケミカル株式会社・海和工業株式会社が資金提供する本学の「大量処理対応型ケークレス高濃縮連続濾過システムの開発」など32件を選定	10. 5 (木)	日刊工業
59 大学院法学研究科で「読売新聞特別講座」始まる 留学生を対象に、すべて英語で行われる講座で、初日の4日は、原野喜一郎・読売新聞東京本社国際部長が「読売新聞の海外報道」と題して講演した	10. 5 (木)	読売
60 福井康雄・理学研究科教授らの研究グループは、南米チリに設置した電波望遠鏡「なんてん」による観測で、銀河系中心部に存在する分子雲の巨大なループを発見 福井教授は、「分子雲からどのように星ができるかで銀河の進化が左右される。銀河中心部にある若い星団の誕生の謎も解明できるかもしれない」と話す	10. 6 (金)	中日 (朝刊) 他4社
61 文部科学省は2006年度先導的ITスペシャリスト育成推進プログラムに、本学などを申請大学とする「OJLによる最先端技術適応能力を持つIT人材育成拠点の形成」など6件を選定	10. 6 (金)	日刊工業
62 科学技術振興機構は、2006年度産学共同シーズイノベーション化事業に本学とセルシグナルズの「アプタマーによる多発性硬化症(MS)治療薬の開発」、本学と日本サーファクタント工業の「触媒的脱水縮合反応プロセスによるカルボン酸エステル類の効率的な大量合成法の開拓」など63件を採択	10. 6 (金) 10. 9 (月)	日刊工業
63 名古屋市老人福祉施設作品展「夢と生きがいの作品展」9日まで開催 7日には、美和千尋・医学部保健学科助教授による福祉講演会が開かれる	10. 6 (金)	中日 (朝刊)
64 「名古屋大学リウマチ療養相談会」12日に医学部附属病院で開催 「新しいリウマチ治療」をテーマにした講演など	10. 6 (金)	中日 (朝刊)
65 学内ネット「名大ポータル」を活用し、学生や教職員を対象とした大地震発生時の「安否確認システム」を構築 11日に実施する地震防災訓練で試験運用する システムを開発した林能成・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター助手は、「ゼミや研究室に所属せず、安否確認が難しいと思われる学部1、2年生に周知を徹底したい」と話す	10. 6 (金)	中日 (朝刊)
66 「第2回名古屋大学インターナショナル・アドバイザリーボード」6日、7日開催 大学院教育の在り方について諮問し、提言をまとめる 委員長のお茶の水女子大学長・郷通子・本学名誉教授は、冒頭のあいさつで、「大学院で学ぶことでどのようなキャリアが開けるかを学生に示すことが大切」と話した	10. 6 (金)	中日 (夕刊)
67 2006年度ノーベル賞：杉山直・理学研究科教授は物理学賞受賞の2氏について、「宇宙の研究者がずっと求めていた、ビックバン宇宙論の最も基礎になる部分の観測に初めて成功した。ノーベル賞は当然で、この2人の組み合わせも妥当だろう」と話す	10. 6 (金)	朝日 (夕刊)
68 相次ぐ科学研究不正：不正告発を考える人が、告発はリスクが高いと躊躇する可能性もあるが、本学は独自に、弁護士事務所に告発窓口を設け、告発者が望めば氏名などは大学に伝わらないようにした	10. 7 (土)	毎日 (朝刊)
69 テラヘルツ波応用広がる：川瀬晃道・工学研究科教授と理化学研究所のグループは、テラヘルツ波を利用して、封筒に入った爆発物などの危険物を検知する技術を世界に先駆けて開発 川瀬教授は、「爆発物や麻薬、炭疽菌は靴や封筒の中に入っている、その種類が100%特定できる」と話す	10. 8 (日)	日経 (朝刊)
70 ほとけたちのイメージを探る：宮治昭・文学研究科教授 仏教石窟の世界	10. 8 (日)	中日 (朝刊)
71 この国のみぞ ロボットハンド：「手の外科」が専門の平田仁・医学系研究科教授によると、人間の手は、受容器にしても、触覚だけで1平方cmに8千個もあるという	10. 9 (月)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成18年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
72 大学も子育て支援：本学は今年4月、東山キャンパス内に「こすもす保育園」を開設 育児支援検討ワーキンググループ主査の森田美弥子・教育発達科学研究科教授は、「ここなら安心して就職できる、研究が続けられる、と学生にも安心してもらえれば」と話す	10.10 (火)	日経 (夕刊)
73 安倍晋三首相の私的諮問機関「教育再生会議」の設置が決定 民間委員17人が任命され、座長に理化学研究所理事長・野依良治・本学特別教授が就任する	10.10 (火) 10.11 (水)	毎日 (夕刊) 他4社
74 この人に聞きたい：教育再生会議座長に就いた理化学研究所理事長・野依良治・本学特別教授 国際競争力と国際協調力を持たなければいけない	10.11 (水)	朝日 (朝刊)
75 佐宗章弘・工学研究科教授らの研究グループは、「リヒトマイヤー・メシユコフ不安定性」の可視化に成功	10.11 (水)	日刊工業
76 北朝鮮核問題：山根義宏・工学研究科教授は環境への影響について、「放射性物質が地上に漏れ出していなければ、直ちに健康に影響を与えるとは考えにくい」と指摘	10.11 (水)	サンケイ
77 ジョン・ギャスライトさんは、ツリークライミングにセラピー効果があるかどうかを確かめるため、大学院生命農学研究科に在籍し、この研究を本格的に進めた	10.11 (水)	朝日 (夕刊)
78 教育再生を聞く：教育再生会議座長に就いた理化学研究所理事長・野依良治・本学特別教授 大学院生の実力低下深刻	10.12 (木)	日経 (朝刊)
79 ひと：教育再生会議座長に就いた理化学研究所理事長・野依良治・本学特別教授 「すべての人がまっとうな人間観を持つために役立てれば」と座長就任を決断した	10.12 (木)	毎日 (朝刊)
80 老年学：井口昭久・医学部附属病院長 高齢者への偏見、見直そう	10.12 (木)	朝日 (朝刊)
81 一般向け講演会・パネル討論会「電磁気による地震予知」13日開催 安藤雅孝・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授による講演「東海・東南海地震を予想する」など	10.12 (木)	中日 (朝刊)
82 鶴舞公開講座「ここまで来ていたがん治療」28日開催	10.12 (木)	中日 (朝刊)
83 11日、大学院法学研究科で「読売新聞特別講座」が開かれ、国松徹・読売新聞大阪本社経済部次長が「国際経済報道」をテーマに講義した	10.12 (木)	読売
84 大学発 VB 独自技術で活発化：本学発ベンチャーでは、培養チップ製造に用いる真空紫外光露光装置を開発したエヌ工房、ユビキタス環境の構築を支援するユビグラフが成果を出し始めている	10.12 (木)	日刊工業
85 防災減災 名大の災害対策：11日の防災訓練で、履修登録などに使う学内ネット「名大ポータル」に、自分の安否情報を携帯電話などから登録できるシステムを試験導入したが、12日の夕方までに登録を済ませた学生は、対象の4割にとどまり、学生への周知に課題を残す 災害対策室長の鈴木康弘・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授は、「部局毎にバラバラに動いている大学で、いかに被害を減らすか試行錯誤している。大学での取り組みを社会全体の防災に役立ててもらいたい」と話す	10.13 (金)	読売
86 東海地方9月の地震：林能成・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター助手	10.13 (金)	読売
87 育休ママ 復帰アシスト：村瀬聡美・発達心理精神科学教育研究センター助教授は、「母親が働くことが原因で、子どもの心身の発達が遅れることはない。有職女性の子どもの方が社会生活能力が優れているという研究もある」と話す	10.13 (金)	朝日 (朝刊)
88 エコトピア科学研究所市民公開講座「電気でファッションブルライフ、あなたも今日からエコロジスト！」13日開催	10.13 (金)	中日 (朝刊)
89 交遊抄：熊沢昭佳・企業年金連合会理事 本学数理学同窓会設立に尽力してきた三宅正武・多元数理学研究科教授ら名古屋人脈ともいえる人たちは、同郷・同窓の気安さから自由に言い合うことができる	10.13 (金)	日経 (朝刊)
90 教育学部附属中学校・高等学校が2007年度の生徒募集要項配布 説明会は11月4日開催	10.13 (金)	中日 (朝刊)
91 名古屋市科学館特別展「脳！内なる不思議の世界へ」14日から12月3日までの会期中、週末を中心にさまざまな講演会が行われる 11月19日開催の祖父江元・医学系研究科教授が講演会「がんに関与する薬で神経難病が治せるかー」として「がんと神経難病の関係」など	10.14 (土)	読売
92 愛知県弁護士会主催の法の日週間記念行事「『超』常識的教育論」14日開催 漫画家の江川達也さんと中嶋哲彦・教育発達科学研究科教授のパネルディスカッションなど	10.14 (土)	中日 (朝刊)
93 「教育再生会議」座長を務める理化学研究所理事長・野依良治・本学特別教授に教育改革への思いを聞く：対話する力や対話を通して人間関係を構築する力を育てたい	10.14 (土)	読売
94 ほとけたちのイメージを探る：宮治昭・文学研究科教授 白骨を観想する僧	10.15 (日)	中日 (朝刊)
95 中日新聞を読んで：日本の新聞も国際記事の充実を 中西久枝・国際開発研究科教授	10.15 (日)	中日 (朝刊)

# 第9回名古屋大学博物館企画展 「本に貼られた小さな美の世界 蔵書票」が始まる

博物館では、10月24日(火)から12月23日(土)まで(日・月曜休館)、第9回企画展「本に貼られた小さな美の世界 蔵書票」を開催しています。

蔵書票とは、本の持ち主が、自分の所蔵物であることを示すために、表紙裏の「見返し」に貼り付けた小さな紙片で、版画の技法を用いた芸術作品です。小さな紙片ではありますが、その凝ったデザイン、また、そこに込められたメッセージ性により「紙の宝石」として、全世界で愛好されており、絵柄に込められたメッセージを読み解く楽しみもあります。

今回の展示では、昨年、樋田直人氏から同館に寄贈された逸品を中心に、約100点を美しく展示しています。学内教員有志の蔵書票プロジェクト、「名古屋大学蔵書票研究会」による研究成果をお楽しみください。

**開催期間：**10月24日(火)～12月23日(土)  
日・月曜日  
**開館時間：**10時～16時まで(入館は15時30分まで)  
**入場料：**無料  
**問い合わせ先：**博物館事務室 TEL 052-789-5767



蔵書票の説明コーナー



展示室での見学の様子

# 「スモールワールド・コーヒーアワー」 開催のお知らせ

●留学生相談室



本学には、約1,200人の留学生が在籍していますが、留学生と日本人学生のどちらも互いに出会う機会を求めている、との声を多く聞きます。また学生たちは、教職員の方々との交流の機会も求めています。そのため、留学生相談室では、本学を構成している様々な「人」が、一緒に多文化交流の楽しさを味わい、ネットワークを築くことのできるユニークな場、「スモールワールド・コーヒーアワー」を開催しています。

この催しでは、コーヒーやお茶などを飲みながら、リラックスした雰囲気の中でテーマに沿ったゲームやグループワークを行い、さらに、文化に関することや、日頃感じていることなどを自由に参加者同士で話し合います。

今学期からは、全学同窓会大学支援事業の助成を受け、学生スタッフと共に、楽しい多文化交流の場を提供していく予定です。留学生、外国人研究者、日本人学生、教職員の皆様のご参加をお待ちしています。

## ●次回のスモールワールド・コーヒーアワー●

11月21日（火）

時 間：16:30～18:00

場 所：留学生センターラウンジ

参加費：無料

今学期は12月20日（水）、1月24日（水）にも開催する予定です。12月以降の開催案内は、留学生相談室ホームページ（<http://www.isa.provost.nagoya-u.ac.jp>）をご覧ください。

お問い合わせ：

名古屋大学留学生相談室

電話：052-788-6118 FAX：052-788-6120

## イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月24日（火）～12月23日（土）

場 所：博物館展示室

時 間：10時～16時

休 館 日：日・月曜日

入 場 料：無料

第9回名古屋大学博物館企画展

テ ー マ：本に貼られた小さな美の世界 -蔵書票-



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

11月18日（土）、12月2日（土）

場 所：理学部1号館

時 間：15時～17時

2006年数学アゴラ 秋の継続コース

[問い合わせ先]

多元数理科学研究科事務室

052-789-5602

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**11月10日(金)～24日(金)**  
場 所：中央図書館 4階展示室  
時 間：9時～17時 (日曜は除く)

**附属図書館・名古屋大学 EU 資料センター展示会**  
テ ー マ：「西洋の発見」



[問い合わせ先]  
附属図書館庶務掛 052-789-3667

**11月17日(金)**  
場 所：博物館講義室  
時 間：15時～16時30分  
入場料：無料

**第64回特別講演会**  
演 題：「李平凡と日中版画交流 ～1940～50年代を中心に～」  
講 師：張 玉玲 (南山大学非常勤講師)

[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767

**11月18日(土)**  
場 所：経済学部カンファレンスホール  
時 間：10時～12時

**オープンカレッジ・自由奔放！サイエンス**  
演 題：「森を動かすミクロな世界」  
講 師：肘井直樹 (生命農学研究科助教授)

[問い合わせ先]  
経済学部・経済学研究科  
エクステンションサービス  
ecoextender@soec.nagoya-u.ac.jp

**11月18日(土)**  
場 所：環境総合館 1階  
レクチャーホール  
時 間：13時20分～16時30分

**第8回まちとすまいの集い**  
テーマ：まちとすまいの安全・安心  
主 催：環境学研究科都市環境学専攻建築学教室  
13時20分～13時30分 教室主任あいさつ  
13時30分～15時10分 第一部 講演  
演 題：「安心して暮らすためのリスクマネジメント」  
講 師：森 保宏 (環境学研究科教授)  
演 題：「デザインにおけるユーザー参加と専門家の役割」  
講 師：谷口 元 (工学研究科教授)  
演 題：「実際の家づくり街づくり」  
講 師：松浦和雄 (ウッドフレンズ)  
演 題：「建築法規のかかわり方」  
講 師：辻 喜光 (名古屋市)  
15時20分～16時30分 第二部：パネルディスカッション  
コーディネーター：西澤泰彦 (環境学研究科助教授)  
総司会：勅使川原正臣 (環境学研究科教授)



[問い合わせ先]  
環境学研究科都市環境学専攻  
まちとすまいの集い事務局  
052-789-3587

**11月23日(木)**  
場 所：博物館野外観察園  
時 間：10時～16時  
対 象：小学5年生以上  
定 員：20名  
参 加 費：300円 (保険・材料代)

**秋の野外実習**  
テ ー マ：どんぐりからさぐる古代の知恵・自然の知恵  
講 師：新美倫子 (博物館助教授)、西田佐知子 (博物館助手)

[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

## 11月24日(金)

場 所：環境総合館 1階  
レクチャーホール  
時 間：10時～19時30分

[問い合わせ先]

環境学研究科事務部  
052-789-3451、3454

## 環境学研究科設立5周年記念

### 附属交通・都市国際研究センター設立記念式典およびシンポジウム

主 催：大学院環境学研究科  
10時～10時10分 シンポジウム開会あいさつ  
10時10分～11時30分 シンポジウム第一部基調講演  
13時～16時15分 シンポジウム第二部（パネルディスカッション）  
16時30分～17時15分 式典（研究科長挨拶など）  
17時30分～19時30分 記念交流会

## 11月25日(土)

場 所：博物館講義室  
時 間：13時30分～15時  
入 場 料：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

## 第65回特別講演会

演 題：「書物と觸體」  
講 師：前野みち子（国際言語文化研究科教授）

## 12月2日(土)

場 所：博物館講義室  
時 間：13時～16時  
対 象：中学生及び高校生  
定 員：30名  
参 加 費：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

## ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～

テ ー マ：ナメクジオウ類の進化のなぞに迫る  
講 師：西川輝昭（博物館長）

## 12月5日(火)

場 所：シンポジオンホール  
時 間：13時～17時

[問い合わせ先]

研究協力・国際部  
研究支援課高等研究院掛  
052-788-6051

## 高等研究院フォーラム2006

テ ー マ：公正な科学研究に向けて一業績評価と研究倫理  
主 催：高等研究院、公正研究委員会

パネリスト：

演 題：「日本の研究者は今、どのような状況にあるのか」  
講 師：浅島 誠（東京大学総合文化研究科教授、日本学術会議 科学者の行動規範に関する検討委員会委員長）  
演 題：「研究者のモラル・評価・社会的責任」  
講 師：池内 了（総合研究大学院大学教授）  
演 題：「科学の本質とその社会における“営み”について」  
講 師：佐古田三郎（大阪大学大学院医学系研究科教授、大阪大学医学系研究科研究公正委員会委員長）  
演 題：「『科学者＝性善説』のままでいいのか」  
講 師：永山悦子（毎日新聞科学環境部「理系白書」取材班記者）

## 12月12日(火)

場 所：経団連ホール  
時 間：10時～17時15分

[問い合わせ先]

研究協力・国際部  
社会連携課連携推進掛  
052-789-5545

## 名古屋大学東京フォーラム

基調講演Ⅰ：「魅力あるイノベーション・センターへの道—“人”と“技術”の拠点—」  
講 師：丹羽宇一郎（伊藤忠商事株式会社社長）  
基調講演Ⅱ：「産学連携の課題と期待」  
講 師：内山田竹志（トヨタ自動車株式会社副社長）  
そ の 他：名古屋大学教授による講演会、研究シーズ説明会、展示等

## 12月16日(土)

場 所：経済学部カンファレンスホール  
時 間：10時～12時

[問い合わせ先]

経済学部・経済学研究科  
エクステンションサービス  
ecoextender@soec.nagoya-u.ac.jp

## オープンカレッジ・自由奔放！サイエンス

演 題：「何を見ても何かを思い出すのはなぜか」  
講 師：齋藤洋典（情報科学研究科教授）

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容
<b>12月19日(火)</b> 場 所：博物館展示室 時 間：13時30分～15時 入 場 料：無料  [問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767	<b>第17回博物館コンサート</b> タイトル：「アイルランド音楽へのいざない」 演 奏 者：小松 大 (アイリッシュフィドル)、長谷川彰子 (チェロ)
<b>12月19日(火)</b> 場 所：博物館講義室 時 間：15時～16時30分 入 場 料：無料  [問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767	<b>第66回特別講演会</b> 演 題：「蔵書票の図像学」 講 師：鈴木繁夫 (国際言語文化研究科教授)
<b>12月21日(木)</b> 場 所：環境総合館 1階 レクチャーホール 時 間：17時30分～19時 入 場 料：無料  [問い合わせ先] 災害対策室 052-788-6038	<b>第25回防災アカデミー</b> 講演題目：「南海トラフ巨大地震の残された謎」 講 演 者：安藤雅孝 (環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授)

## 【訂正とお詫び】

名大トピックス No.161 (2006年10月発行)の17ページ写真下のキャプションに誤りがありましたので、深くお詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正させていただきます。申し訳ありませんでした。

### モンゴル国立大学で日本法教育研究センター開所式を挙げる

- 〔誤〕 式典出席者 (左から、近藤文部科学審議官、モンゴル大使館員、市橋モンゴル大使、トゥムルオチル教育文化科学副大臣)
- 〔正〕 名古屋大学主催レセプション会場にて (左から、平野総長、トゥムルオチル教育文化科学副大臣、近藤文部科学審議官、オドバヤル法務内務大臣)

名大トピックス No.162 平成18年11月16日発行  
 編集・発行／名古屋大学広報室  
 本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。  
 名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)  
**TEL** 052-789-2016 **FAX** 052-788-6272 **E-mail** kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ  
 (<http://www.nagoya-u.ac.jp/topics/>) でもご覧いただけます。

## 表紙

今年10月に開館した赤崎記念研究館 (竣工記念式典の様子は P. 12、13) (平成18年10月25日)



## 55 『八高生のぞ記』 —旧制高校生たちの学園生活—

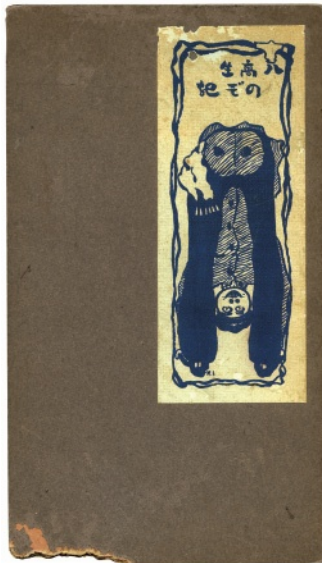
旧制高等学校のナンバースクールは、戦前における超エリート養成学校です。卒業生のほとんどが帝国大学に進学し、各界の指導者として活躍しました。名古屋にあったのが、1908(明治41)年、現在の名古屋市立大学瑞穂キャンパスに創設された第八高等学校(八高)です。戦後は名大教養部となりましたが、戦前も3年間の教養教育機関であり、名大教養教育のルーツといえます。

その八高生の学園生活を、風刺をきかせながら描いた漫画集が『八高生のぞ記』です。1928(昭和3)年の創立20周年記念祭で売り出されたもので、経本のようなじゃばら式にとじた画帖の形式になっています。はがき大の漫画は全部で24点あり、入学から卒業まで、学寮を中心に当時の学校生活のエッセンスが詰めこまれ、活気に満ちた生活がいきいきと描き出されています。また、キャプションとして、

ユニークな短文の寸評もついています。昭和初期の時代における、旧制高校の学生文化史・生活史の貴重な史料です。

これは『八高五十年誌』(1958年)に再録され、現在では八高会(第八高等学校同窓会)の機関紙『伊吹おろし』に連載の紹介コーナーがありますが、八高卒業生以外にはあまり知られていません。『名古屋大学大学文書資料室ニュース』第18号(昨年3月発行)には、加藤鉦治室長(当時)による詳細な紹介文が掲載されています。

最近になって、卒業生の遺品の中から、「八高生のぞき」が発見されました。題名は似ていますが、こちらは14枚の絵はがきであり、内容も講義や部活動など幅広いことが特徴です。こちらも作者や制作経緯などが分からず、謎の多い史料でもあります。



1	3	4
2		

- 『八高生のぞ記』の表紙
- 「4. コンパ 胃袋の現化が無けなしの財布の塵迄はたいて菓子を買ひ、Y談X談隠芸等々に頑張るところは仲々の見物である…」
- 「6. 寮雨 時間と労力の経済のために、我輩等最も卓越せる人格者は寮雨と称する至極便利な方法で、身を軽くし…」
- 「13. 試験の前夜 さア、普段すつかり怠けてあるので、試験の前にはステンに頑張る。見る間に頭が膨張して、流星は秀才だ…」